

## 第21期

### 2014年度ハピネスやくら・はちのへ事業計画

1人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ  
～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～



“文化・創造 カルチャーデイ”  
飛躍の年に思いを込めて

## 2014年度ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

### ・・・目次・・・

1. 施設長方針	・・・	1～10
2. 特別養護老人ホームハピネスやくら		
○ 特養マネージャー	・・・	11～16
○ 生活相談員	・・・	17～19
○ 介護支援専門員	・・・	20～22
○ 1階生活援助部門	・・・	23～26
1 A Bユニット	・・・	27～29
1 Cユニット	・・・	30～32
○ 短期入所生活介護部門		
1 Dユニット	・・・	33～34
○ 2階生活援助部門	・・・	35～38
2 Aユニット	・・・	39～40
2 Bユニット	・・・	41～42
2 Cユニット	・・・	43～44
2 Dユニット	・・・	45～46
○ 医療サービス部門		
看護	・・・	47～50
機能訓練指導員	・・・	51～53
○ センターオフィス部門		
事務	・・・	54～57
食事サービス	・・・	58～59
○ 居宅介護支援事業	・・・	60～62
3. ケアステーションハピネスはちのへ		
○ 居宅介護支援事業	・・・	63～67
○ 訪問介護事業	・・・	68～70
○ 福祉用具貸与・特定福祉用具販売	・・・	71～75

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

事業名	第21期（2014年度）ハピネスやくら事業計画 施設長方針		
作成者	部署名		役職名 施設長
	氏名	加賀 しのぶ	
年度目標 テーマ	1人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ ～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～		
<p>ユニットコンセプト型特養として、八戸市八幡地区に建替移転して3年目を迎えます。</p> <p>これまでの2年間は、従来型ケアからユニットケアへ移行する上で、職員の確保と育成、体制整備等に多くの時間を費やしました。法人内施設との情報交換の中で、同調する部分とカスタマイズする部分を見極め、問題や課題をシステム構築へ転換し、職員一丸となってハピネスやくらの礎を築いてきました。</p> <p>2014年度は、「ユニットケア」から「個別ケア」へ立ち還り、お一人おひとりのあるべき暮らしを実現するという基本的視点に立ち、ご家族と協力しながら、個別ニーズにチームで関わることで、「看取りケア」、「学習療法」、「口腔リハビリ」をはじめとする様々な活動が有効的に連動するように組み立てていきます。</p> <p>新たに居宅介護支援事業所を開設したことは、在宅生活をおくる高齢者の生活を支えることに加え、施設と地域・医療・他サービス事業所や行政・各種協議会等を繋ぐ役割を果たし、今後の地域福祉拠点を目指す上で、引き続き中心的な役割を担うものと思います。</p> <p>高齢化率32.5%の八戸市館地区にある施設として、施設行事や施設整備に協力頂くだけでなく、地域行事への参加、施設開放にも積極的に取り組む中で、館公民館まつりで八戸市と締結した福祉避難所の紹介や入居者の作品を展示したこと、地域防災訓練に参加したこと、やくらミニ文化祭に地域の方々の作品を展示する等、新たに取り組んだことを更に定着させていきたいと思えます。また、館公民館の建替に要する3年間、公民館の会議場としての役割を代行することになりました。</p> <p>公民館の機能が分散、縮小されたことで、地域貢献事業として、施設を地域に開放することに留まらず、専任の職員を配置し、いきいきサロンや「脳の健康教室」のように在宅高齢者や地域の方が目的をもって利用していただけるよう、ボランティア育成も含め働きかけていきます。それが、今後の地域包括ケアシステムの一役を担う施設として、専門性を活かし、更に地域の福祉力向上につながるものと思えます。</p>			

その他、地域ニーズについては、年6回開催される「運営推進会議」を活用して、行政、地域住民代表、ご家族代表、ご入居者代表らと情報交換しながら現状とニーズを把握し、居宅介護支援事業所とも連携を図りながら、地域貢献と関連して対応していきます。

2012年6月から認知症ケアとして取り組んできた「学習療法」は、学習者や職員に効果を認めるにとどまらず、2014年1月『青森県南部導入施設 学びと交流の会「や～れ南部の会」』発足に至り、ハピネスやくらは幹事施設及び青森県事務局として、青森県から全国に向けて、情報を発信する等の中心的役割を担っていきます。

2013年6月18日厚生労働省から公表された「職場における腰痛予防対策指針」について、介護ロボットの開発企業との情報交換を経て、持ち上げない介護、介護用リフトの導入など積極的に取り組み、腰痛のない心身とも健全な職場づくりを目指します。

少子高齢化を背景にした国の社会保障制度や第6期介護保険制度改正に向けての動向、各自治体の方針や高齢者の状況、医療制度、就業者の中長期的な動向等を常に把握しながら、翌年に控えた第6期介護保険事業計画に備えたいと思います。

## ハピネスやくら施設長方針

### 「一人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ ～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～」

#### 1. ハピネスやくら組織体制 (組織図参照)

##### (1) センターオフィス体制

施設の労務、一般事務、利用者管理、環境整備、当直者を管理する事務部門と栄養管理を行う栄養サービス部門を統括します。更に学習療法のセンター機能を担い、学習療法の円滑な運営、更に地域高齢者の認知症予防に向けた「脳の健康教室」開催に向け取り組みます。また、衛生管理者を配置し、職員が心身共に健康で働きやすい環境作りを行い、離職者を出さないよう衛生委員会と協働していきます。

地域に開かれた施設として、カフェとショップを運営し、地域交流スペースを活用します。

##### (2) 特養部門

特養マネージャーが中心となり、1階・2階の各フロアリーダー以下生活援助員、介護支援専門員、生活相談員を統括します。特養の生活相談員は入所判定会議から面談、契約、入居に至る一連の業務を遂行し、併せて、短期入所ベッド管理、合同行事責任者、ボランティア担当、町内をはじめとする外部との連携窓口、訪問受け

入れ、苦情受付窓口等の業務を行います。入所相談等だけでなく、現在のご入居者やご家族に対する相談業務及びご入居者主体の生活が送られているか等、生活の質QOL、最期の質QODの向上、身体拘束、権利擁護等、多方面に於いて専門的立場から支援します。

介護支援専門員は、ケアプラン立案が主となる業務ですが、ご本人の意向確認やご家族の役割をもコーディネートしながら、皆がプラン共有できるように支援します。また、生活相談員とともに2015年からの第6期介護保険計画の情報収集を行い、計画立案等を担当します。

(3) 医療サービス部門

看護部門と機能訓練部門を統括します。看護部門は日常的な健康管理を行い、嘱託医や医療機関との連携や相談窓口となります。看取り、医療連携、口腔リハビリ、感染症対策、褥瘡予防、身体拘束廃止に向けて、中心的な役割を担います。機能訓練指導員は、個別機能訓練及び集団体操等の計画と実施、自立に向けた自助具選定や、安全で快適な生活のため、住環境整備を行います。ご入居者の日常生活全般に関わると共に、職員への腰痛対策、適切な援助技術への指導を行います。

(4) 在宅部門

居宅介護支援事業所は、ケアプラン作成をはじめ、地域貢献事業の一環として、地域の高齢者福祉の現状把握等、地域の高齢者福祉の相談窓口及び、「脳の健康教室」等の開催に向け、センターオフィスと共に、地域高齢者の認知症予防に向けて、取り組みます。

2015年からの第6期介護保険事業計画の情報収集を行い、速やかにスライドできるように、介護保険のエキスパートとして関係者や施設に発信します。

八戸市介護支援専門員連絡協議会の事務局役員として活動し、ネットワーク作り、専門性の向上などに努めます。(協議会会長から依頼有り)

(5) ハピネスはちのへ

所長を中心に、(居宅介護支援事業)、(訪問介護事業)、福祉用具貸与と販売を継続します。特に福祉用具事業は、自社レンタルベッド54台の運用を安定させること、八戸市内の利用者増に向けて取り組みます。

ハピネスはちのへ開設時の基本に立ち還り、八戸市街地に居住している在宅高齢者の生活を支援する、法人内の各施設が有効に活用できるという目的に向けて活動していきます。

## 2. 各事業運営方針

### (1) 特別養護老人ホーム

#### ① 個別ケア

ユニットケアの理解と実践を深めながら、個別ケアが基本であるという視点に立ち還り、その方らしい暮らしや望むことを、ご本人と家族と語る時間を持ち、施設職員チームと協働して実現に向けて支援します。

日常生活支援を基本とし、非日常的な行事やアクティビティを絡めながら、メリハリのある暮らしを援助します。向かいのコンビニエンスストアも活用します。

ユニットは各リーダーの個性を尊重し、特色のあるチーム作りをします。そのためには、ユニットケアを十分に理解し、「何時までに〇〇を終えなければならない」という従来型の感覚を払拭し、その時々状況に合わせた臨機応変な対応が求められます。この従来型の感覚を払拭することは、業務改善や時間外勤務改善にもつながります。ユニットケアの利点を十分に活かす為には、「一人ひとりの暮らしや思いに寄り添うケア」が大切です。職員の意識、知識、技術を育成していきます。

特にその延長で見えてくる看取りケアは、入居時から始まることを再認識し、委員会が中心となって施設全体で取り組みます。

#### ② 地域密着型特養の意義を踏まえた運営

定員 20 名の地域密着型特養は、運営推進会議がご入居者、ご家族代表、地域代表の皆様が集い、施設運営に対するご意見や、情報交換を行う大変意義のある会議です。

地域の中で在宅生活をおくる高齢者と同様に、日常生活が活性化し、ご家族や地域との連携を図りながら生活していただけるように支援していきます。(1AB 担当)

#### ③ 民主的運営

ご入居者の自治会「楓の会」は毎月開催され、受け身だったサービスから、自ら参加、決定することで、自主的に施設運営に関わって頂いています。

苦情やご意見は、投函箱を活用し、更に 7 月からオンブズマンとして「NPO 法人八ネット」と契約し、月に 1 度施設訪し、ご入居者に話を聴いて頂いたり、代弁機能としての役割をお願いしており、今後は内容について、季刊誌や掲示板を利用して周知させます。

ユニット懇親会ではご入居者・ご家族・職員が一同に会し、顔見知りになる機会となりましたが、今年度は更に行事への家族参加を促し、ケアプラン作成時と別に、担当職員とご家族が面談する機会を作ることで、希望や思いを共有したいと思いません。

#### ④ 地域への発信と地域貢献事業

- ・ 社会福祉法人等による利用者負担軽減制度を継続します。
- ・ 館公民館の建替に伴い、会議場の機能とサークルの発表会練習場の機能代行。更に、高齢者サロンとして専任職員を配置し、在宅高齢者を対象とした、認知症予防「脳の健康教室」、健康体操、口腔ケア指導、栄養教室等、週3回程度の介護予防教室を開催します。
- ・ 季刊誌の内容は、行事等を中心としたものから、専門性や取組を紹介する内容を加えグレードアップを図り、外部へも設置、配布します。
- ・ 認知症対策として、学習療法に施設全体で取組み、更に青森県事務局として、青森県のとりまとめと、施設内外への情報発信に努めます。  
6月の「や〜れ南部の会」では事例発表会を予定しています。(1月は未定)
- ・ 11月には、「やくら健康まつり」を開催し、病院・ボランティア・在宅介護支援センター等、地域の資源を絡めながら講演会や制度、健康等についての情報発信の機会とします。

#### ⑤ 職員の専門性の向上

- ・ 職員個々の目標を掲げ、共有します。
- ・ 段階別、職種別の職員研修を計画的に実施します。
- ・ 外部研修は、人材育成計画に沿って適任者をリストアップし、研修に輩出後、内部の職員へ伝達講習する等フィードバックします。
- ・ 資格取得の受験者に対し、取得に向けた支援を行います。  
特に介護福祉士資格試験は、2015年度から実務3年+研修500時間へ改正になる予定が1年延期になったことから、今期に多くの受験資格を持つ職員が合格できるよう、勉強会や模擬試験受験などを含め最大限に支援します。
- ・ 研修だけでなく、定期的に上位職による個人面談を行い、不安や悩みの解決相談を受け付けていきます。退職に至る前に原因を見つけ、対策を立て、各職員の目標が達成できるよう支援します。
- ・ 法人内外の交流と研修を有効に活用し、現場に反映します。

#### ⑥ 職員が心身ともに健康で安心して就業する職場風土づくり

- ・ 腰痛対策として2013年6月18日厚生労働省公表「職場における腰痛予防対策指針」に示された内容に取り組みます。持ち上げない介護は、職員だけでなくご入居者にも安楽であることを理解しながら、介護用リフトをはじめとする福祉用具の選定と購入、活用、介護職員への個別指導、各種フォローアップに向けての専門職との連携、業務改善等に積極的に取り組みます。
- ・ 職員のメンタルヘルスケアとして、上位職による面談を定期的に行い、産業医に

協力を仰ぎながら、悩みを共有できる体制を作ります。

**⑦ 第6期介護保険事業計画に向けた準備**

- ・2015年度～2017年度の第6期介護保険事業計画に向けて、適切な運営ができるように、国や各自治体の動向を情報収集しながら準備に入るため、各種研修会の参加、専門誌の購読、施設外の動向の情報を共有する目的を持った施設内会議の内容を充実させます。

特に、要支援者の介護保険からの切り離しについて、各市町村の事業計画の動向を確認しながら、施設開放の目的を「要支援者や介護予防」を最重点とした活動を実施していきます。

地域包括ケアの一役を担う施設として、地域の医療、他福祉サービス、行政らとの連携を密にしながら、地域福祉の向上に努めます。

**⑧ コンプライアンスへの取組**

- ・介護保険法、老人福祉法、経理会計等について施設内でチェックする体制整備として「3M会議」を活用します。法人内事業所の実地指導について情報交換等も有効に活用します。

**⑨ 防災への取組**

- ・職員の防災意識を高め、有事をシュミレーションしながら、いざという時に適切に動けるように体制を整備します。

更に、八戸市と福祉避難所契約を締結していることから、必要物品の管理と、地域との連携に努めていきます。

**⑩ 稼働率の安定**

- ・特養、短期入所とも97.0%を目標にします。生活相談員を軸に計画的に待機者を作り、ベッド管理を行います。転倒や観察不足等による不必要な入院を防ぐために、職員の技術、観察力、連携が不可欠であり、更に嘱託医との連携は医療サービス部門中心に他職種協働で取り組んでいきます。

ご入居者の生活がその方らしく、良いものとなるために、ケアプランはご入居者のご家族の意向を中心に、手順やポイントを明確に盛り込み、ユニットや専門職間で共有します。



**(2) 在宅サービス**

・居宅介護支援事業所は、地域のニーズを把握し、対応し、地域で暮らし続けるための支援を行います。また、地域と施設を繋ぐ架け橋としての役割を担います。第6期介護保険事業計画について、各自治体の動向や他事業所との連携の窓口として、情報をキャッチしたり、法人内及び介護支援専門員協議会等との連携を図ります。また、施設開放に向けて要支援者や介護予防等の取組の中心となり、「脳の健康教室」開催に向けて、センターオフィス職員と協働で取り組みます。

**3. 委員会活動**

※リスクマネージャー1名配置全委員会を統括

委員会	活動内容
学習委員会	① 学習療法の導入、評価、窓口、見学会企画、検証、発注等 ② 青森県事務局・・・「や〜れ南部の会」運営
看取り委員会	看取りケアについて教育、指針やマニュアルの見直し 偲びのカンファレンス開催、実践・検証、事例検討
口腔リハビリ	書類作成、マニュアル実践と徹底 当日の運営、職員研修
感染症食中毒予防	マニュアル作成と実践、指導、見直し 啓蒙活動、物品の準備と管理、研修会の企画運営
事故防止・苦情対策	事故分析、再発防止策の経過検証、KYTの推進と助言 啓蒙活動、研修会の企画運営
褥瘡予防（入浴）	事故分析と傾向分析などにより、再発予防を促す活動 治癒に向けての取組、皮膚トラブルの検証、特浴の整備
排泄	排泄用品の物品管理、コスト管理、トイレ誘導の励行 排泄用品の試用、個別ケアの推進と定着、助言指導
防災	年3回の防災訓練の実施、防災用品の管理、地域防災活動参加 職員への指導、非常時連絡網整備、日常的な防災への取組
研修委員会	施設内研修の計画と実践、評価 職員会議での勉強会コーディネート
コンプライアンス	各法律や制度に違反していないか、書類の内容、人員配置、経 理等をチェックし合う機能を有する → 3M会議にて実施
衛生委員会	職員の心身の健康維持に向けての取組として、業務改善の励 行、職員のレクリエーション企画と実践、産業医との連携、 残業の把握と改善（3M会議への提言等）
腰痛改善委員会	職員の腰痛対策に向けての取組として、介護用リフト等導入、 腰痛の実態把握、KY活動の推進、産業医との連携 福祉用具等備品の準備、デモ機の活用等

広報・地域交流	季刊誌の作成と有効活用と配布、設置等 地域行事への参加
身体拘束廃止、虐待防止	虐待の調査、職員研修の開催、不適切なケアに対する指導 廃止への取組

4. 予算の統制

収支差額目標に向けて取り組んでいきます。

5. 民主的な運営を目指して

① 運営推進会議の開催 (地域密着型特養) 1階FL、1ABユニット担当

開催日時	奇数月 第三木曜日 13:30~14:30
参加者	入居者代表 家族代表、八戸市担当者、地域代表 施設長、フロアL、ユニットL、生活相談員、特養M
内容	施設と地域との情報交換、意見交換、要望の確認等 実態の報告等

② 第三者委員会 特養生活相談員担当

開催日時	年2回 (7月、2月)
参加者	八幡地区婦人部代表 (地域代表) 株式会社ポラリス代表取締役 (学識経験者) 施設長、施設M、リスクM、生活相談員
内容	施設と地域との情報交換、意見交換、要望の確認等 ご入居者、ご家族、地域等からの苦情及び対応について助 言指導を仰ぐ

③ 第三者評価受審 青森県社会福祉協議会の第三者評価受審予定 (特養M担当)

④ NPO法人 入居者の代弁や助言の機会としてハネット福祉オンブズマンを継続。  
(生活相談員とUL職位以上が順次担当)

6. 施設整備

旧やくら荘の解体に向けて検討していきます。

7. 2014年度理事長方針の具体的活動

2014年度理事長方針に基づき、ハピネスやくらの具体的活動は以下の通りとします。

(1) 人件費及びベースアップ

- 1) 人件費はやくら 61.9%、ハピネスはちのへ 46.4%(合計 60.0%)を目標にします。  
(2013年度決算見込み～やくら 59.9% ハピネスはちのへ 48.6%、合計 58.5%)

生活相談員を1名増員し、ソーシャルワーカーとしての専門性を発揮し、地域連携の核として、ボランティアの発掘と育成、地域貢献事業、権利擁護等の機能と、第6期介護保険事業計画の情報収集を行い、移行がスムーズに図れるように取り組みます。

人件費ベースアップを収入の1%とし、処遇改善、人材確保、専門性向上に努めます。

(2) 事務費・事業費

- 事務費と事業費の合計は、やくら収入の24.5%、ハピネスはちのへ 50.6%、合計 27.6%を目標とします。 ※重度化対策事業、地域貢献事業、職員研修費含む  
(2013年度決算見込みやくら収入の20.6%、ハピネスはちのへ 51.1%、合計 24.3%)

(3) 重度化対策事業 . . . 2,530千円計上(収入の0.6%)

ノーリフト施設協議会へ参画し、知識を深め、ノーリフティング・ポリシーの実践に向けて、介護用ロボット(介護用リフト)、ティルト式及び、モジュラー型車椅子、リフティングボード等を購入し、有効に活用します。

メーカーモニター参画等を積極的に行い、その結果を地域に発信します。

(4) 地域貢献事業 . . . 4,220千円計上(収入の1%)

社会福祉法人等による利用者負担軽減制度(960千円)及び講師等の派遣を継続します。八戸市と締結した福祉避難所として物品の準備や地域との連携を図ります。

11月開催予定の「やくら健康まつり」では、医療、保健・福祉関係者及び地域住民に呼びかけ、講演会や展示、地域文化を絡めた行事内容とします。

新たに、「高齢者サロン」を週3回を目標に開催し、「脳の健康教室」「健康体操」「栄養指導」「口腔ケア」等、介護予防を主の目的とした、地域住民が主体となって関わる取り組みを行うため、コーディネートをします。

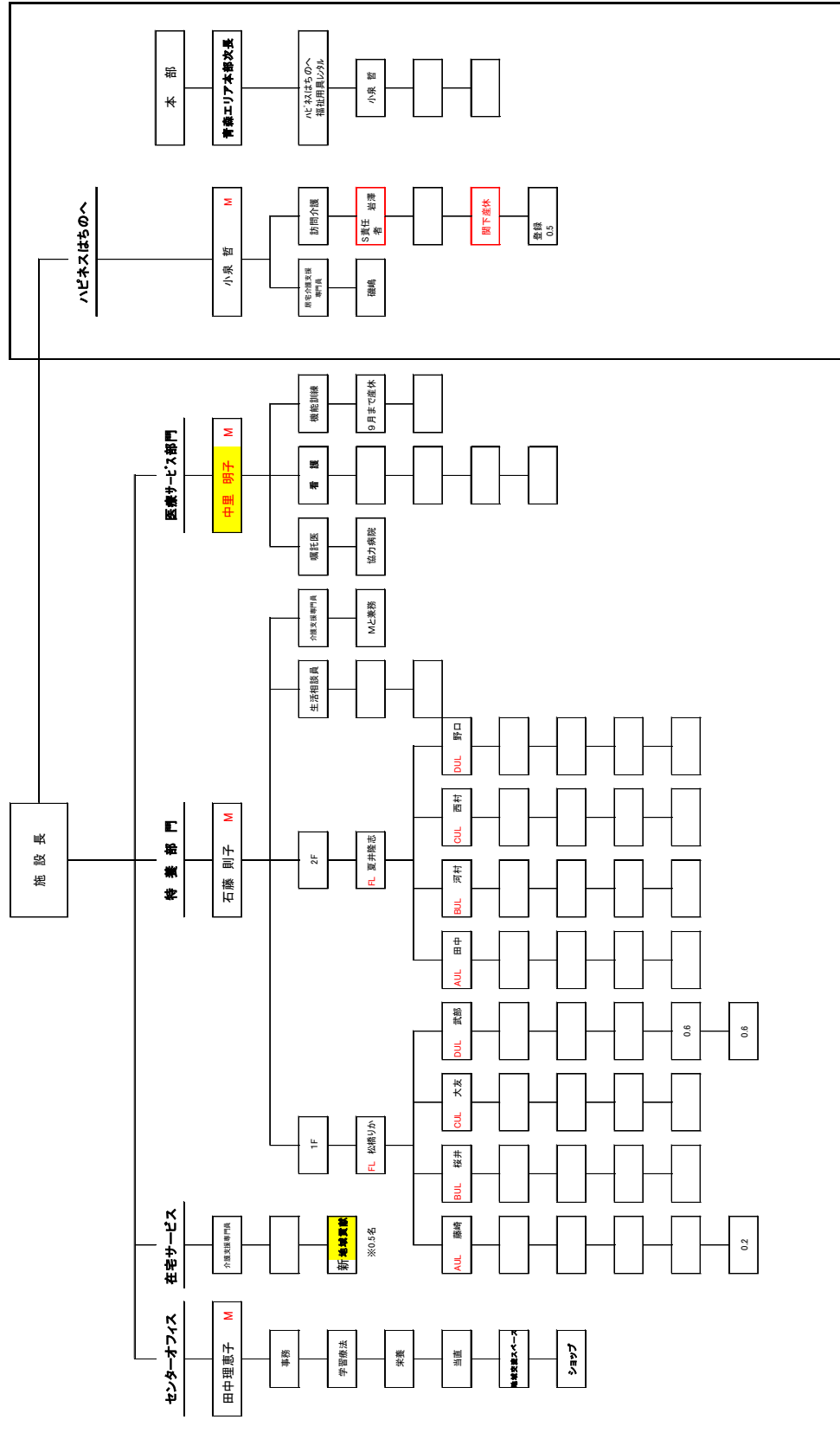
(5) 職員研修費 . . . 1,530千円計上(収入の0.4%)

地域包括ケア体制及び第6期介護保険事業計画移行に向けて、調査費及び職員の質向上及び資格取得に向けて支援します。

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度 ハピネスやくら組織図(案)

平成25年9月4日現在



事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特 養	役職名	マネージャー
	氏 名	石藤 則子		
年度目標 テーマ	3年目の挑戦 ～～日常の延長にある暮らしの実現に向けて～～			
<p>2014年度施設長方針「一人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ ～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～」を受けて、特養マネージャーとして「3年目の挑戦 ～～日常の延長にある暮らしの実現に向けて」を年度目標、テーマとし事業計画を立案致します。</p> <p>～現状分析～</p> <p>2年前の2012年3月30日、従来型特養からユニット型特養へ建替移転となり、施設長を先頭に専門職やフロアリーダー、ユニットリーダー、職員一丸となって無我夢中でユニットケアに取り組んだ2年間だったと思います。</p> <p>やくらでは1年目から、法人で取り組んでいる「学習療法」「口腔リハビリ」を取り入れました。学習療法では専門職ばかりでなくユニット職員の関わりが大きく、生活の一部である事を理解し取り組むことができました。</p> <p>口腔リハビリでは、導入当初は看護師、理学療法士、管理栄養士の専門職の関わりが大きくありましたが、2年目からはユニットリーダーが中心に関われるようになりました。</p> <p>看取りは旧やくらの時から取り組んできました。看取りに対しての理解を深め、職員の不安を軽減できるよう、看取り委員会を中心に研修を行っています。</p> <p>介護職員から、介護技術・知識向上のための勉強会を開いてほしいという声が挙がり、毎月の職員会議内で研修の場を設けました。全職員60名強のうち30名以上の職員が集まるため有意義な研修を行うことができました。今後も研修の場として職員会議を活用して行きます。夜勤入りや公休の職員の出席は強制せず、出席できなかった職員には資料を提供する等し、研修内容の共有を図っています。</p> <p>各委員会や会議等は、シフトに反映させて出席できるように調整しています。会議を有効に活用するよう、事前に議題を提示し決められた時間内で会議を進められるよう管理しています。予定された会議以外の、例えば事故カンファ等は施設内でルールを取り決め、できるだけ勤務時間内でカンファと記録が終われる体制が取れるよう努めています。</p> <p>ユニットでは各ユニットリーダーがそれぞれのユニットの特色を出しながら、ユニットケアを進めてきました。一人ひとりの生活リズムやスタイルに向き合い、悩みながら積み上げてきた2年間でした。</p>				

3年目の挑戦として、更にもう一步ご入居者個々の日常の生活に踏み込み、ここでどう生活したいか、何を希望されているのか、その延長にあるその方らしい暮らしの実現に向け支援したいと考えます。

(1) 特養部門

①個別ケア

3年目となる今年度は、ユニット単位でユニットリーダーを中心に、ひとり一人の生活に目を向けた個別ケアを進めていきます。

24時間シートの活用ではその方の現在の生活の習慣や生活のリズムを知ることができませんが、それは介護する側に必要な情報であり、ご入居者が望む生活の支援とは異なる物であると考えます。

生活歴等の情報収集のために現在行っているのは、入居時にご家族へその方の①暮らしの様子②暮らしの情報シートの記入をお願いしています。食事習慣や嗜好、趣味等、介護を行う上では重宝していますが、今年度は更に「その方を知る」意味でも、情報を厚く収集していきます。フロアリーダー、ユニットリーダー、居室担当、必要時は相談員やケアマネージャーも関わって行きます。まずはご本人から、施設でも自宅と同じような生活を送れるための要望を伺い、その先にあるご入居者のあるべき姿のイメージを描き、自己実現に向けた支援を行います。またご家族からの情報収集手段としては、ユニット毎で計画を立てて実施していきます。

ご入居者、ご家族、ユニット職員の三者がうまく交差しながら、その人が昔の自分を取り戻せるような支援を行います。施設全体の非日常的な行事以外で、その方が普段の生活の中で行っていた買い物や近所への外出、漬物作りや裁縫など、生活の一部であり、特別ではない普通の日常に寄り添ったケアを行って行きます。

施設車両は、現在ワゴン車2台と軽乗用車1台、軽ワゴン車1台になり、台数が増えた事で予定や計画がなくても、お天気が良ければミニドライブで気分転換を図れるようになります。季節を感じれる風やお日様、空の色、自然に触れる機会が増えます。ユニットでは、個々の要望に応えられるよう、状況に合わせた勤務時間の見直しも視野に入れ、シフトを工夫する等、ご入居者のニーズに合わせた職員配置を検討して行きます。

特養マネージャーとしては、フロアを越えて『楽しめる場所』としてセミパブリックスペースの活用を提案して行きます。1週間に1回のパブリックハウス＝パブの営業は、あまりお金をかけず誰でも気軽に立ち寄り、町内に1件はある居酒屋ののれんをくぐるイメージで運営して行きたいと思えます。夕食後から寝る前の少しの自由時間を作って行きます。

## ②民主的運営

自治会は、2012年度から準備に取り掛かり、2013年度には本格的に活動を始めました。会の名称は「かえでの会」とし、規約の作成と行事への参加、月1回の自治会活動を主に行った1年でした。事務局であるフロアリーダーや生活相談員、マネージャーがバックアップ体制をとり、何とか形は整備できた段階ではあります。

会の方針である「ご入居者自らの責任で考え、参加し決定する」ことを念頭に、今年度は三大大行事への参加をメインに、活動を図って行きたいと考えています。夏祭りのテーマ、ご入居者の催し物等、計画の段階から関わって頂けるよう支援していきます。

昨年7月からのオンブズマン導入では、ご入居者へはオンブズマンの方の役割を説明し理解頂いています。継続しオンブズマンの声には耳を傾け、ケアの質の向上とご入居者が安心して生活頂けるために役立たせて頂きます。

## ③地域への発信と地域貢献事業

館公民館が建替えとなることにより、地域住民の方の訪問する機会が増えてくることが予想されます。会議等に効率よく活用して頂くとともに施設への理解を深めていただく場として、施設職員が専門的知識を提供できる貢献事業に結び付けていきたいと考えます。昨年度行ったカルチャーデイがご入居者に好評だったこともあり、「やくら健康祭り」と名前を変えて、2日間の日程で行って行きます。地域住民向けには介護や高齢者に関わる講演会や、認知症予防教室の開催に携わって行きます。講演会のあとの懇談会・交流会があれば、地域への発信が更に効果を高めると思います。ご入居者向けには、自治会で提案し、ご入居者の意見を取り入れたものを発信して行きます。門戸を広く開き、地域の方が気軽に足を運べるような施設作りを目指します。

## ④余暇の充実

週1回ずつ実施しているクラブ活動は、今年度も継続し行って行きます。「エアロビ」「カラオケ」「映画鑑賞」「料理」以外にも自治会からの意見を取り入れ、生け花、茶道、書道等、少人数でも希望があれば開催を検討して行きます。

## ⑤職員の専門性の向上

研修委員会では職種別の職員研修を計画します。ご入居者の生活の質を高めるために、介護福祉士の技術講習テキストを基本に、フロアリーダー、ユニットリーダーが中心となり、指導を行って行きます。専門性を高めることで期待できることは、ケアへの気づきや適切なケアにつながることです。職種別の中でもさらに、経験年数や資格別に応じた研修を計画します。

- 1) 現在、着任時に2日間の座学での研修制度を取り入れています。法人の沿革、最低限必要な労務、ユニットケアについて、高齢者の食事、緊急時の対応や感染症、移乗や車椅子操作の仕方、介護保険制度、車の操作、食洗機や個牒の使い方等の研修を継続します。施設長、事務マネージャー、看護マネージャー、管理栄養士、特養マネージャー、フロアリーダー、相談員、機能訓練指導員の他職種が時間を調整し実施しています。
- 2) 今年度は、経験年数や資格別で研修の計画を立てて行きます。目標は『優しい介護』とします。優しい＝安全、安全なケアはご入居者の身体への負担が軽いということであり、負担が軽ければ職員の腰痛対策としても活かされます。優しい言葉遣い、優しい声かけ、優しい振る舞いについて、介護の質の向上をめざし指導していきます。
- 3) 職員会議の中での研修継続は年間を通して実施していきます。
- 4) フロアリーダー主催で資格取得に向けた支援を行います。
  - ・10月の介護支援専門員の受験対策講座の開催（8月より毎週開催）
  - ・1月の介護福祉士の受験対策講座の開催  
正月明けより筆記試験対策として毎週開催  
2月に入ったら、実技の模擬練習として、毎週課題を決め実施

#### ⑥稼働率の安定

2013年度の特養の稼働率は、98%の見込みとなっています。退居から次の方の入居までの入れ替えに要した日数は、目標の7日を達成する事が出来ず平均8.1日となり、3月現在で入居11件、退居11件となっています。

4月、7月、8月の3ヶ月が目標稼働率96.7%を下回ってしまいました。30日以上入院者が4名出た事が要因として挙げられますが、その他の月は目標を上回っています。

2014年度は、法人の目標稼働率96.7%に対しやくらでは97%の目標を設定します。一人ひとりの日常の生活の延長線に看取りケアがあると考え、生活の充実を図ることが結果施設運営の安定につながって行くことを理解しながら稼働率の安定に努めて行きます。今年度は生活相談員が2名体勢となることで、待機者5名の確保とスムーズな入れ替えが行えると考えます。



2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

		2014年度【ハピネスやくら】施設月別年間スケジュール表											
		2014上半期			2014下半期			第4四半期			第4四半期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本日程		口腔リハビリテーション オンブズマン 消防設備点検 理美容 ユニット懇親会 芸術ボランティア 学習スタッフ養成	口腔リハビリテーション オンブズマン 「や〜れ南部の会」 理美容 施設点検 エレベーター点検 園庭草取り 避難訓練	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 施設点検 エレベーター点検 園庭草取り 避難訓練	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 第三者委員会 ご入居者健康診断	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 第三回夏祭り お盆供養	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 第三回敬老会 彼岸供養	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 芸術ボランティア ワゴン車定期点検 ピア調律 夜間想定避難訓練	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 カルチャーティズ タイ交換 インフルエンザ予防接種	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 餅つき 市老人クラブ訪問 忘年会	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 第三回新年会 「や〜れ南部の会」	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 自治会 第三者委員会	口腔リハビリテーション オンブズマン 理美容 運営推進会議 自治会 施設内ワックスがけ
稼働状況 稼働率	(特養)97% (短期入所)97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	97% 97%	
各種会議・委員会		口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 学習療法委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	口腔リハビリ委員会 事故防止、苦情対策委員会 看取り委員会 広報委員会 排せつ委員会 衛生委員会 職員会議 施設連携会議 マネージャー会議 リーダー会議 給食会議	
人事管理(採用、研修、評価)		正職登用試験	口腔ケア勉強会 食中毒の研修 認知症外部研修 職場リーダーの外部研修	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会	口腔ケア勉強会
その他地域貢献活動		明治小学校入学式 明治中学校入学式	明治中学校体育祭 明治小学校運動会 防災士総会、講習会 (災害協力隊避難訓練参加)	社福実習生受け入れ 養護学校生見学	館地区学区区民体育祭 館地区学区区民体育祭	明治小町たんけん 市認知症フォーラム 社福実習生受け入れ DSやわた秋祭り見学	館公民館祭り見学 (災害協力隊避難訓練参加)	館公民館芸術発表会 NITT手芸クラブ	定期職員面談 医療連携勉強会	定期職員面談 介護福祉士直前対策	定期職員面談 介護福祉士直前対策	定期職員面談 介護福祉士直前対策	定期職員面談 明治小学校卒業式 明治中学校卒業式

平成26年4月1日改正

◎一委員長 ○一副委員長

平成26年度 ハピネスやくら委員会組織

委員会名	各部 署										CM	オブザーバー	開催日	
	事務	相談員	在宅	1FL	2FL	1AB	1CD	2AB	2CD	医務				機能訓練士
事故防止・苦情対策		◎黒坂		松橋	◎夏井	若本	武部	西村 奥	中里	小國			施設長	第2火曜日 16:30
衛生	◎田中	黒坂		松橋	板橋	板橋	◎大友 武部、中村	具塚 田村	中里	小國				第4火曜日 16:30
腰痛改善	○			松橋	若本	若本	清水	田村		小國				第1木曜日 16:00
学習療法	◎立花			松橋	◎桜井	◎桜井	武部	河村 奥		小國	○		田中M	第1火曜日 4/7/10/1 第1月曜日 6/9/12/3
看取り		黒坂		松橋	松田	松田	◎清水	佐々木 大村	◎中里	小國	○		松橋L 夏井L	第1火曜日 16:30
褥瘡予防(入浴)				松橋	下館	下館	沼尾	坂本 具塚	◎鳥越	小國	○			
口腔リハビリ				松橋	藤崎	藤崎	大友	田中達 河村	◎中里	小國	○			
感染症・食中毒予防				松橋	下館	下館	中村	◎野口	◎秋守	小國	○サブ		中里M	6/9/12/3 第1水曜日
広報地域交流	立花	黒坂		松橋	◎藤崎	◎藤崎	◎清水	若本 奥	青名畑		石倉		田中M	4/7/10/1 第3水曜日
身体拘束・虐待防止		黒坂		松橋	夏井	◎坂橋		黒澤	狹守					6/9/12/3 第1水曜日
研修			小泉	◎松橋	若本	若本	大友 吉田	野口						4/7/10/1 第2水曜日 5/8/11/2 第3火曜日
排せつ				松橋	◎藤崎	◎藤崎	清水 吉田	黒澤 田村					松橋L 夏井L	4/7/10/1 第3月曜日 第2木曜日
医療連携				松橋	板橋	板橋			◎中里 青名畑					第2水曜日 第2火曜日 16:00
防災		黒坂		松橋	◎夏井	◎夏井	中村	◎田中達	佐々木					
建物設備	◎立花	◎黒坂		松橋	◎夏井	◎夏井								
除雪隊				松橋	◎夏井	◎夏井								
睡眠				松橋	夏井	夏井								
				松橋										

※ 地域交流・ボランティアコーディネーター：相談員

平成26年度 行事実行委員会

行事名	開催日	各部 署										家族会	オブザーバー	
		事務	相談員	在宅	1FL	2FL	1AB	1CD	2AB	2CD	医務			機能訓練士
夏祭り	8月2日(土)	立花	◎黒坂 石藤	小泉	夏井	夏井	桜井 若本	大友 吉田	田中 田村	西村 野口	中里	小國	石倉	田中M
敬老会	9月12日(金)		◎石藤		松橋		藤崎	◎清水 中村	若本 河村	青木 佐々木	類家		石倉	田中M
カルチャーデー	11月7日(金) 11月8日(土)	○	○		◎松橋	夏井	板橋 下館	黒澤 大村	武部	西村 奥	鳥越		○	3M
餅つき	12月26日(金)		黒坂		松橋		山口	田中	野口 青木	青名畑			◎石倉	中里M
新年会	1月14日(水)	田中M	黒坂	小泉	◎夏井	◎夏井	藤崎	中村	河村 田村	佐々木 具塚	狹守	小國	石倉	中里M

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特 養	役職名	生活相談員
	氏 名	黒坂 康人		
年度目標 テーマ	一人ひとりの生活の質 QOLの向上 ～地域の一員としての生活へ～			
<p>2013 年度は《開放感のある施設を目指し、地域に発信する》を目標に掲げ、地域への発信を行ってきました。</p> <p>ご入居者、ご家族の個別ニーズに対応するために、相談員として個人への関わりを深く持つ事を基本に、今までの地域交流をさらに発展させ、行事や発信だけでなく、施設やご入居者が地域の一員として在るように、地域を知り、出向き、参加することも含めながら、やくらの役割を考えて活動していきます。</p> <p><b>現状分析</b></p> <p>今年度の特養は、年間通して安定した稼働率を保つことができました。隣地にクリニックが開設し、嘱託医となり、ご入居者の健康管理体制が構築され、前年度の入院日数 725 日から約 4 分の 1 の 225 日まで減っています。10 月中旬から 12 月まで入院者がなく、稼働率 100%を維持できた期間も有りました。</p> <p>短期入所は月で稼働率にばらつきがありましたが、空床利用を活用し、稼働率が 100%を超える月もあり、年間目標の 96.7%を上回る見込みです。新規利用者も年間 70 名以上と順調に利用者が増えている状況です。</p> <p>特養の入退居の入れ替えは 11 件あり、平均入れ替え日数は 8.1 日となっています。11 名の退居の内、看取りで亡くなられた方は 4 名いました。</p> <p>入居待機者を常時 5 名確保する目標について年間通して達成できなかったことは、今後の課題です。要因として短期入所の稼働率確保に意識が傾きすぎ、計画的に面談業務が行えなかったことが挙げられます。</p> <p>目標に掲げていた、「開放感のある施設づくり」という点では、地域の芸能ボランティアの受け入れの継続と、今年度初めて個人ボランティアの受け入れ（シニアはつらつポイントの利用もあり）を行いました。行事に関しても、自治会の意見を反映した計画を意識し、さらに家族、地域の協力をいただく形で進められたと思います。</p> <p>また、やくらを会場にした救命講習会では回覧版を利用して地域へ広報活動を行い、地域の方の参加を頂きました。福祉避難所としての情報の発信、地域の防災訓練、公民館祭りにも参加しました。</p> <p>2014 年度はこれまでの相談員業務に加え、ご入居者、ご家族の相談支援を中心に考えたソーシャルワーカーとしての専門性を強化し、以下の計画を遂行していきます。</p>				

## 1. 生活相談員業務に関して

やくらでの稼働率目標 97%を確保する為、昨年度に出来なかった「待機者の確保」を改善し、円滑なベッド管理を行います。

常に待機者 5 名の状態を目指し、面談、入所判定会議、重要事項説明の流れを確立します。特養の入れ替え日数は 7 日以内を目標とし、入院者が出た場合には短期入所の空床利用を円滑に活用します。ベッド管理に関してシステムづくりはもとより「迅速な行動」を意識し取り組んでいきます。

外部との連携窓口、苦情の受け入れ窓口の業務は昨年に引き続き行っていきます。

行事（新年会、夏祭り、敬老会）に関して、家族、地域の方々も巻き込み、何より民主的運営になるような働きかけをしていきます。

## 2. ご入居者・ご家族の生活ニーズに応え、生活の質を高める相談支援を行う

### (1) ご入居者との関わりの強化

個別ケアを図っていく上で相談員がご入居者と関わりを多く持ち、ご入居者のニーズをより多く探っていくような観察、働きかけを行います。本人の生活の状況の聴取だけでなく、本人の「語り」の部分を大切にしながらご入居者との関わりを持ちたいと考えています。また、生活相談員として権利擁護の視点を持ち、施設で生活することでのご入居者の不利益が無いよう、改善、発信していく働きかけを行っていきます。

関わりを多く持つといっても、自分の意思を伝える事が出来ない寝たきり度の高い方が多いのが現状です。直接ケアにあたっているユニット職員の意見を聞き、自分の目でも実際にどういう関わりが日頃もたれているのかを確認し、必要なケア、環境をユニット職員と協力しながら整えていきたいと思えます。

### (2) ご家族との関わりの強化

各ユニットの懇親会、行事に参加しご家族とのコミュニケーションをとるようにします。ご家族から得た情報をユニット職員と共有し、ケアにつなげるための方法を一緒に考えていきます。

普段からご家族との関わりを多く持つユニット職員からも情報をもらい、ご家族の希望、要望等にもアンテナを張っていきます。

ご入居者の家族状況を把握し、ご入居者の生活面や経済的な問題、家族関係の問題も含め、情報をより多く集め、ご入居者・ご家族・施設の三者が納得した上でやくらでの生活を送れるように、全体のコーディネートを行います。

(3) ユニット職員との関わりの強化

ユニットの業務内容にも常に改善・向上の意識を持ち、ユニット会議にも参加します。また、活動の中心を相談員室ではなく、ユニットの中にして、近くにご入居者、職員がいる状態で施設の実情を把握し、職員へのOJTも行えるような体制にします。

**3. 地域の一員として役割を持つ**

(1) 地域との連携

館地区を中心とした地域との窓口業務を行います。地域の諸活動の受け入れ、連絡調整を行い、地域との交流を円滑に進めていきます。また地域密着型運営推進会議等で、地域の情報をキャッチします。

施設内掲示板を活用し地域の情報をご入居者にも発信します。地域の伝統芸能や小・中学校の行事等にご入居者と一緒に参加し、実際に目で見て、肌で感じて頂きます。施設の中だけでの生活ではなく、実際に外に出て地域性を感じていただきます。

(2) ボランティアの受け入れ

個人、団体問わず、日常生活ボランティアを含め、受け入れ態勢を整えていきます。活動内容は希望者の自主性を尊重しながら、生活一般のボランティアをはじめ、クラブ活動、行事の手伝いにも参加していただきたいと考えています。

(3) 発信する

受け入れだけでなく、発信も積極的に行っていきます。町内の掲示板を活用させて頂き、町内の方の目に触れるような情報の発信をしていきます。情報の発信、地域交流を行い、施設の中にご入居者・職員ではなく、地域の一員としてのご入居者・職員という意識を地域全体に浸透させていくことが目標です。

**4. 介護保険の情勢を把握し、専門性を持った各活動への関わり**

(1) 入所申し込み者への対応

依然として増え続ける長期入所の申し込み者に対し、社会的ニーズを見極め、必要な社会資源の情報提供を行っていきます。他事業所の情報も、短期入所の営業や相談員部会等で収集し、現在の八戸市の状況も踏まえ入居相談に応じます。

(2) 会議への参加

ケアカンファレンス、ユニット会議、担当の委員会に参加し、生活相談員としての専門性を持った関わりをしていきます。ユニットや委員会がチームとして機能するように助言、コーディネートを行っていきます。

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	特 養	役職名	介護支援専門員
	氏 名	石藤 則子		
年度目標 テーマ	その人らしさを表現できる ケアプランの作成			
<p>2014 年度施設長方針「一人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ ～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～」を受けて、介護支援専門員として「その人らしさを表現できるケアプランの作成」を年度目標、テーマとし事業計画を立案致します。</p> <p>～現状分析～</p> <p>2013 年度の計画は、ご入居者の生活が施設でも継続し過ごせるよう、ご本人とご家族も一緒にケアカンファレンスに参加して頂き、ご本人の生活に関わって頂く事を目標とし挙げました。</p> <p>2012 年度の体制では 70 名のご入居者に対し、兼務のケアマネージャー1 名がケアプランを作成してきました。しかしその方が望む生活を引き出すまでには至らず、2013 年度は 2 名体制とし改善を図りました。全体を 1 名の介護支援専門員が管理し、地域密着型 20 名に対し 1 名、ユニット型特養 50 名に対し 1 名の配置としました。ユニット職員がご本人の要望・希望を優先で伺い、意思疎通が難しい方に対しては、ご家族の面会時に要望を伺い、ケアカンファレンスに臨みました。新規入居の方へは、入居日から 3 日間 24 時間シートを活用し生活パターンの情報収集を行いました。ご家族へは暮らしの情報シートへ趣味や信仰・嗜好などの記入をお願いし、入居 1 ヶ月後の見直しのカンファ時に活用させて頂きました。</p> <p>介護支援専門員が 2 名配置となって良かった点は、1 名の介護支援専門員がフロアリーダーであったため、介護の現場に近い視点から生の声を聞きだし、プランに活かされたことだと思います。</p> <p>ケアカンファレンスへのご家族の同席については、ケアマネージャーとして調整できず実施に至らなかったため、2014 年度はフロアリーダー、ユニットリーダーの協力を仰ぎ、実現にこぎ着けて行きたいと思っております。</p>				

(1) 特養部門

①個別ケア

2014 年度は、ユニットリーダー中心としたユニット職員協力のもと、ご入居者一人ひとりを知ること为目标に取り組んでいきます。現在できていること、これから取り組んでいきたいこと等、ご本人の希望する生活を聞き出し、将来像のイメージを探れるよう情報収集に努めます。ケアマネージャーとして定期のケアカンファレンスでは、ユニット職員が引き出したご本人やご家族からの要望を盛り込み、プランに反映させていきます。学習療法を行っている方であれば、毎月の目標とケアプランを連動させ生活の質の向上に繋げて行きたいと思えます。

昨年度は 2 名体制でプランの立案・作成を進めてきましたが、今年度はまた 70 名のケアプランを 1 名のケアマネージャーが立案することで体制の見直しを図ることになり、スムーズに業務を引き継ぎ、体勢を整えて行きます。

現在は、面談時の情報を基に暫定でプランを立て、入居日にご家族へ説明し同意を頂いています。しかし実際、その後のご家族の要望は、ユニット職員は伺えてもケアマネージャーが必要とする情報を、なかなか聞く事が出来ていないことが課題でした。今年度は入居 1 ヶ月が経過した時点で、再度ご家族の意向を伺えるシステムを作っていきます。入居 1 ヶ月後にケアプランの見直しの説明と一緒に、1 ヶ月経過した時点でのご本人の変化の感想、ご家族としてこうなってほしいと考える姿像等の要望を伺っていきます。

看取りケアについての意向も、徐々に伺って行けるような流れを作って行きたいと思えます。

<看取りケア>

2014 年 3 月 5 日現在、看取りケアを行っている方は 9 名となっています。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
開始	1	1 (意思確認)	0	2	0	0	1	0	1			1
終了	0	0	1	1	1	0	1	0	0			
計	8	8	7	8	7	7	7	7	8			9

2013 年度 (2013 年 3 月現在) の退居者 11 名の内、長期入院が 2 名 (退居後永眠が 1 名)、病院で死亡が 5 名、看取りの方が 4 名となっています。病院で死亡の方 1 名は、意思確認は取れていたが同意書を交わしておらず病院受診となり、そのまま病院で死亡となっています。施設で最期を迎えられた 4 名の内、1 名の方は地域密着型の看護体制が取れておらず、加算の算定はできていません。

2014 年度は看取りケアにだけ視点を合わせるのではなく、その人らしい生活が送れるよう、ご家族が主体となってその方の生活全般に寄り添ったケアを目指します。

看取りケアを日常の延長と考え、普段からその方との関わりを重視し取り組んでいきます。私共は、日常的に訪室しお話をさせて頂きながら、穏やかな時間を共有して行きます。

<身体拘束廃止・虐待防止委員会>

委員会では現状を分析し、不必要な身体拘束が行われていないかを検証していきます。現在身体拘束実施者は、6名となっています。一番多いのが鼻腔からの経管栄養流動中の自己抜去予防のためのミトン着用です。6名中5名となっています。手浴時や学習療法時にはミトンを外す時間帯を設け対応はできています。ご入居者の精神的苦痛が取り除けるよう、身体拘束ゼロを目指し施設全体で取り組んでいきます。

また、不適切なケアから虐待と考えられる行為が生じていないかの調査を実施していきます。権利擁護の視点から身体拘束ゼロと虐待防止の理解を深めるため、職員研修の実施も継続し開催して行きます。



事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	1階フロア	役職名	フロアリーダー
	氏名	松橋 りか		
年度目標 テーマ	一人ひとりの心を観る・識る・聴く・それに応える個別ケア ～その人らしく生きるための支援～			
<p>《現状分析》</p> <p>1階フロアは、地域密着型特養 20名と特養 10名のご入居者、ショートステイ 10名のご利用者が生活されています。八幡地区に建替え移転し、ユニットケアと個別ケアの確立を目標に2年間の取組みをしてきました。プライバシーが守られた個室となっているプライベートスペース、同じユニットのご入居者や職員との馴染みの関係が作られているセミプライベートスペース、カフェのあるパブリックスペース等を自由に行き来し、自宅に戻りたいという希望を持ち、リハビリの時間以外にご自分で運動をするご入居者がいらっしゃいます。環境により生活の質が向上したことで身体的にも精神的にも機能の回復につながっていることを実感しています。このようにご入居者の意思を尊重した個別の排泄や入浴、食事の支援ができるようになったことでユニットケアが理解され定着してきました。</p> <p>その反面、従来型のケアからユニットケアへの移行に戸惑いながら、職員が定着できない状況もありました。ご入居者は大きな事故はなかったものの、転倒等の事故報告があがったり、職員が一人で判断、対応が必要な場面が多いユニットケアでの課題も見えました。解決するためには、少しでも不安を取り除けるように新入職員や経験、資格に応じた研修に力を入れ、職員のスキルアップと離職者を無くす取組みが必要だと感じる2年間でもありました。</p> <p>個別ケアについてもご家族からの情報を基にご入居者一人ひとりの希望に副った生活を支援し、笑顔があふれる安心と安全が確保された暮らしを提供したいと考え取り組んできました。ご自分の意思を伝えて下さるご入居者は、お誕生日に職員が付き添ってドライブに出掛けたり、ご家族と外出を楽しんでおられました。ユニット行事として米作りや野菜を育てて収穫したり、花を植えたり、少しでも昔の生活を取り戻すための取組みをする中でたくさんの笑顔を見ることもできました。</p> <p>しかし、中にはご自分の意思を伝えることができないご入居者もいらっしゃいます。ご入居者の立場や気持ちを考えたケアを心掛けてきましたが、お一人おひとりを理解し、真のニーズに対応した個別ケアを確立するために、継続した取組みをしていきます。</p> <p>2014年度は、ご家族の協力をいただきながら個別ケアを理解し、実践し、確立できるように、「一人ひとりの心を観る・識る・聴く・それに応える個別ケア」を目標に“その人らしく生きるための支援”をしていきます。</p>				

## 1. 個別ケア

- ① 2013年度の事業計画に示した個別ケアへの取り組みの中で、ご入居者を識るための情報収集が不足だったことから、今までどのような人生を歩んで来られたかをご家族から聴く時間を作り、どのような生活にしたいか等の意向を合わせた情報シートを作成します。ご入居者の担当職員が連絡を取り、都合に合わせて施設、または自宅を訪ねて他の職員と一緒に話しを伺います。ご自分の意向を伝える事ができないご入居者については、ご家族の情報と現在の心身の状態を観ながらその人の立場に立った個別ケアを進めていきます。必要であれば、フロアリーダーや専門職も同席し、健康面や生活面の不安が解消されるような支援も行います。
- ② 今までの生活の中で習慣となっていることについては継続し、また、新しいことへのチャレンジもできるようにアクティビティを充実させ、興味を持ったものを選んで参加していただけるようにし、潤いのある暮らしを支援します。また、月刊誌の年間購読を行い、フロア内に自由に読めるスペースを設け、2階フロアの雑誌と交換しながら楽しんでいただきます。
- ③ 個別での支援の他に馴染みの関係であるユニット内での行事も企画し、施設内だけでなくお花見会のように外へ出掛けて賑やかに過ごせる時間も提供し、自由に参加していただきます。
- ④ ユニット職員は、その日の気分や天候により、その時々希望や訴えを個別ケアにつなげるようなコミュニケーションを心掛け、要望があった時にはタイムリーで臨機応変に対応ができるよう、ユニット職員その他、専門職も協力していきます。そのためには、フロアリーダー、相談員が調整を行います。
- ⑤ ご家族と一緒にやってきた習慣や家庭での催事は、職員もできるだけ継続できるように送迎等の支援を行い、個別での外出や施設内外でのユニット行事については、ご家族にも付き添いをお願いしたり、家族で過ごす時間を大切にしていきたいと考えています。
- ⑥ ユニットの勤務時間は、24時間シートを基にご入居者のニーズが重なる時間帯に手厚いケアができるようなシフトを考え、個別ケアについては臨機応変に日勤の時間を調整することで対応します。変則勤務での申し送りを確実に行うことで、次の勤務者への引き継ぎが終わり、勤務終了時には退勤できるような支援内容や業務改善を検討し、ご入居者と1対1で向き合い会話ができるような余裕を持ったケアを実践していきます。
- ⑦ 学習療法を希望されるご入居者には、引き続きユニット職員が中心となり、専門職も関わりながら継続して支援します。
- ⑧ ショートステイのユニットでは、利用中でも在宅での生活に近づけた環境や自由にお一人おひとりの週間や日課が継続できるような自立支援を行います。希望される場合は、集団でのレクリエーションや体操の他に個別の機能訓練を実施します。

## 2. 運営推進会議

地域密着型特養については、生活相談員、フロアリーダーと協力しながら2ヶ月に1回の運営推進会議を開催します。会議の参加者に対して提供しているサービス等について明らかにすることにより、地域や行政・関係機関との連携が確保され、地域に開かれたサービスにすることで、職員のスキルアップ、サービスの質の確保と向上を図っていきます。

## 3. 民主的運営

ご入居者で組織されている「楓の会」は、行事に対する要望や施設サービスについての意見をくださったり、夏祭りでの有志による催し物参加等、自分たちの生活を自分たちの力で楽しく質の高いものに変えていこうと毎月、継続した活動を行っています。フロアリーダーやユニットリーダー、ユニット職員も出来る限り参加し、ご入居者の声を聴くことで、個別ケアにもつなげていきたいと考えています。

昨年からは、「NPO法人八ネット」の福祉オンブズマンの方が毎月訪問されています。直接ご入居者からお話を聴き、要望や施設に対する改善点等の意見をいただくことでサービスの質の向上を図っています。フロアリーダーも生活相談員・ユニットリーダーと交代で関わり、素早い対応をしていきます。

## 4. 職員の専門性の向上

- ① 介護福祉士資格試験の改正が1年延期になったことで、受験する職員に対する勉強会を4月から定期的実施し、資格取得を支援していきます。
- ② ユニット内でも、必要時に専門職からの指導を受けたり、ユニット会議の場を活用して介護の知識や技術の勉強会を行い、適切で質の高い介護力を目指します。これにより、事故件数の減少につながり、ご入居者の生活の質が向上すると考えます。
- ③ 施設内の研修の他、外部研修に参加した場合は、研修内容を報告するだけでなく、積極的に発信し、介護職員全体でのレベルアップにつなげます。

## 5. 安心して働ける職場づくり

- ① 新入職員の全体研修終了後、配属になったユニットではリーダーを中心に3ヶ月を目処に夜勤に入れるよう指導を行います。資格の有無に関わらず、ユニットケアを理解し、個別ケアにつなげることができるよう、1ヶ月間はなるべく決まった職員が指導にあたり、2ヶ月目は変則勤務に入りながら1週間毎にユニットリーダーとフロアリーダーが面談して不安を取り除き、習熟度を確認します。
- ② ユニット職員はユニットリーダーが定期的に面談を行い、フロアリーダーはフロアの職員全員との面談を年に2回以上行い、体調面に不安がある職員はその都度面談し、メンタル面に関してはメンタルヘルス窓口担当者につなげます。

- ③ 離職の原因にもなっている腰痛については、介護リフト等の福祉用具を導入することで、ご入居者も安全で安楽な移乗が可能となり、職員の腰痛予防と離職率の低下につながると期待しています。リフトの操作に慣れるまでは、職員間で何度も繰り返し操作の練習と専門職からの指導を受けながら実践します。また、福祉用具を活用することで、ADLの向上を意識した生活支援を行い、自立に向けた取り組みから直接の介護量の減少につなげていきたいと考えます。

#### 6. 稼働率の安定

看取りケアと口腔リハビリへの取り組みを継続し、ユニット職員と看護師、他専門職との連携により入院を減らし、稼働率 97%を目標とします。また、転倒による骨折等での入院を無くすため、特養、ショートステイでも入居・利用前にはカンファレンスを行い、リスクやケアプランの情報を共有します。

#### 7. 身体拘束廃止・虐待防止委員会としての取組

委員会の委員長として、現在 6 名のご入居者の身体拘束をゼロに近づけることを目標に取り組みを行います。

- ① 職員の身体拘束に対する意識を変えるために生活相談員からの権利擁護に関する研修会を実施します。
- ② ユニット会議にて、拘束を解除できるように専門職も加わって検討します。
- ③ ご家族との個別ケアについての情報収集の際に拘束廃止に向けた相談をし、最終的には廃止できるように話し合いを持ちます。
- ④ 虐待防止についての研修会を行い、虐待について理解を深め、職員一人ひとりが適切なケアができているかを見つめ直し、フロアリーダーとしても意識的にユニットの状況を把握し指導していきます。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	ハピネス やくら	役職名	1ABユニットリーダー
	氏名	藤崎 真貴子		
年度目標 テーマ	1人1人の個性を活かした生活 ～ご入居者の立場に立ち、安心した暮らし～			
<p><b>【現状分析】</b></p> <p>定員20名の従来型特養ではありますが、ユニットケアを実践して2年が経ちます。職員はABユニットどちらかに固定せず、20名を観るという体制で従来型の感覚が残ったままのケアもありましたが、個室で居室内に自分専用のトイレがあることでトイレでの排泄が可能になったり、食事好きな時間に召し上がっていただきご入居者の希望に沿った個別の対応が出来るようになりました。</p> <p>個々の排泄用具は居室に準備され、排泄時間を尿測等で把握し、その方の状態に合わせた排泄時間に周りからは気づかれることなく排泄を済ませることができています。排便コントロールや体調等の異常時は、看護と協働で対応していますが、経管栄養で拘縮が強く見られ、ご自分の気持ちを伝える事ができないご入居者が多いユニットのため、職員の介護力に頼るところもありました。打撲や内出血等の事故報告が提出されたり、皮膚剥離等のトラブルもあり、ユニット会議では、介護の技術や知識の再確認と指導を行いながら取り組んできました。その中から気づきが多くなりヒヤリハットが出され、小さなことでも発信できるようになっています。介護職員としての責任の重要性を理解し、情報共有を図りながら、各自基本に戻り、ご入居者が安全で安心した生活を送ることができるようユニット職員一丸となって取り組んでいる状況です。</p> <p>1ABユニットは経管者が7名と多く、自ら意思表示やお話する事が出来ないご入居者には、意識的に沢山の声掛けを行い、訪室や離床を心掛けています。</p> <p>特浴対象者が20名中13名と多いため2階のユニットと調整しながら使用しない午前中や、体調により昼の経管流動前に入浴していただくように勤務の工夫をし、ゆっくりと浴槽に浸かって頂くようになりました。ご本人の好きな温度で、ゆっくりと会話を楽しみながら入浴していただくことで、「温まった」、「気持ちがいいな」、「もっと入りたいな」等の嬉しい言葉も聞かれ、ご自分の気持ちを表現されることが増えたと感じています。</p> <p>外出が難しいご入居者もいらっしゃるため、ユニット内での行事を行い、バイキング食や鍋、手作りおやつを提供し食べる楽しみを感じていただいています。</p> <p>「看取り」対象者は3名となっていますが、ご本人が希望する食事時間に体調に合わせた離床やコミュニケーションの支援もできるようになり、日々の生活を穏やかに過ごされています。</p>				

口腔リハビリにより、経管者2名が完全ではないものの経口摂取が可能になっています。少しずつご入居者のADLが向上し、特に夕食後からご自分で動かれる方があり見守りや対応ができないことから、早く出勤する遅番を廃止し、2名の遅番体制に変更しました。全介助のご入居者が多いため、起床時間などに介護量が集中する時間帯や特浴の時間が伸びることで洗面や爪切り等の対応が不十分でご迷惑をおかけしたところもあります。また、「散歩」「おやつ」等、希望する事はその都度対応していますが、ご本人の希望にタイムリーに添えない場合もあり、ご本人とご家族の理解を得た上で、時間をずらしての対応となる事もあり、職員のシフトについての課題も見えてきました。

2014年度はご家族にも協力していただき、他職種との連携と情報共有により、お一人おひとりの意向に沿った個別ケアを目指していきます。

#### 【個別ケアに向けた行動計画】

- ① 4月にはご家族との交流の場を設け、生活歴等の情報収集を行い、どのような生活をしたいか等の意向を合わせた情報シートを作成します。その中から、真のニーズを探り、ご本人の望む生活に視点を置いた個別ケアにつなげます。  
又、その日その時で気分も違う為、要望を引き出せるようなコミュニケーションの働きかけを行っていきます。
- ② ABユニットは経管者で寝たきりのご入居者が多いことから、職員の声掛け・観察能力・表情からの発信に気付き、体調の異常の早期発見と対応に敏速かつ冷静に行えるよう、月に1回程度の勉強会を開催します。又、皮膚トラブル防止のため、排泄時は石鹸洗浄を行い皮膚の清潔保持を行います。
- ③ 今までの生活の中で継続できることと、新しい事への興味を引き出し、アクティビティを充実させ、自由に選んで参加できるようにします。長時間の離床が困難なご入居者もいらっしゃるため、ユニット内での行事も計画し、誕生日のお祝いや音楽・時代劇・映画鑑賞等を行い、ご入居者の時代背景を職員も一緒になって学び、生活に張りをもっていただけるように支援します。行事には、ご家族にも事前に連絡をし、参加していただけるように働きかけます。
- ④ 職員の介護力の把握のため、定期的な面談を行い、個別に相談や指導できる環境を行います。不安な職員については、フロアリーダーに報告し面談を実施しながら、必要であればメンタルヘルス担当者につなげます。
- ⑤ 24時間シートの活用を元にシフトを臨機応変に対応できる体制作りを視野に入れ、必要な時間に手厚いケアが出来るようにし、勤務終了時間には退勤できる様に変則勤務の見直しや業務内容も検討していきます。

**【運営推進会議】**

2か月に1回、奇数月に開催されている運営推進会議は、ご入居者様代表、ご家族様代表、地域代表者、八戸市担当者、施設職員が一同に会し情報交換をする会議です。地域密着型特養について生活相談員、フロアリーダーと一緒に開催し、参加者に提供しているサービス等を明らかにする事により、地域や行政関係との連携が確保され、地域に開かれたサービスする事で活発な意見交換が行われ、スタッフのスキルアップやサービスの質の向上を図っていきます。

**【排泄委員会としての取組】**

スキントラブル軽減し、明るく快適に自分らしく生活を目指します。

年間を通して、年4回の尿測と新規入居者の尿測を実施したり、新人職員への指導を担当します。又、排泄委員会でユニット職員の排泄の支援について、随時見直します。

その際、個々に添ったオムツやパットの変更や維持の確認と、皮膚状態の確認を行い、ご入居者へ負担の無い支援を提供します。(漏れの要因や改善、あて方の共有化を図ります)

無駄なパット使用が無いように、各ユニットの排泄委員会職員は、月の発注金額の確認と在庫確認を行い、評価しながら、全職員に周知していきます。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	1 階 C ユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	大友 俊也		
年度目標 テーマ	ここでしか作れない思い出が作れるユニットに ～ご入居者・ご家族・そして職員も～			
<p><b>〈現状分析〉</b></p> <p>当ユニットは平均介護度 4.6 であり、経管栄養者が 4 名在籍しているユニットです。看取りの方も 1 名おり重度の方が多いうニットであります。口腔清拭や喀痰吸引など日々のケアに職員一丸となって取り組んでおり、入院者も比較的少なく経過しております。</p> <p>読書やラウンジでコーヒーを嗜むご入居者や、ラジオを楽しまれるご入居者もおり、個々のライフスタイルを確立されている方もいらっしゃいます。</p> <p>また誕生会などの行事も毎月行っており、和やかな雰囲気ユニットであると自負しております。</p> <p>トイレ利用されている方は 4 名おり、立位介助 3 名・下衣上げ下ろし介助 1 名と全員軽介助が必要なが、3 名は尿意がありトイレ希望時は職員に知らせて下さいます。</p> <p>食事は 2 名の方が全介助で召し上がっております。</p> <p>入浴については、特浴の方が 6 名おり、個浴の 4 名を協力ユニットにお願いしている状態です。</p> <p>自らの意思を明確に伝えられる方は 3 名おりますが、いずれも表に立つ性格ではないため職員に遠慮している傾向があります。</p> <p>ご家族の面会も多く、ほぼ毎日面会がある方が 1 名、毎週面会がある方が半数以上あります。毎年開催している懇親会も半数以上のご家族が参加されるなど、ご家族の協力に恵まれたユニットです。</p> <p><b>〈個別ケア実現に向けての取り組み・計画〉</b></p> <p>①情報収集</p> <p>一人ひとりに適したケアを行っていくためには、まず手始めにその人の詳しい情報を知ることが必要と考えます。</p> <p>ご入居者の生活歴や意向・施設職員で取り組みたい事などを一覧にした『情報シート』を 4 月中に各担当で作成し、それを基にしてご入居者やご家族から、より詳しい情報の聞き取りを試みます。聞き取りは 5 月以降を目処に、面会時や家族宅の訪問・懇親会などの機会を利用して行う予定です。</p> <p>そうして得られた情報を基に、個々の状態・性格・ニーズに合わせた対応を行います。</p>				



一例として誕生日の場合、皆と集まってお祝いをされるのが好きな方には一同に会してお茶会を、出かけて外食をするのが好きならば外出を、それぞれその人にとって特別な日となるように提供します。

#### ②自立支援

現在、当ユニットには自宅復帰を目標にリハビリを積極的に行うご入居者がいらっしゃいます。また、一人でトイレに行きたいと願うご入居者もいらっしゃいます。PT と連携して立位や移乗訓練のプランを組んで頂き、曜日を決め積極的に行っていきます。

#### ③家族との関わりを強化する

当ユニットについてご家族により関心を持って頂くために、『ユニット便り』を月1回発行します。

月の行事やユニットの日常風景を収めた写真を数点掲載しコメントを載せた平易なものとし、ユニット職員持ち回りで作成とします。また、担当の言葉やご入居者の月の状態も併記し、これを月1回の近況報告とします。

そのために、行事や日常風景などでご入居者が示した反応や仕草を逃さないように、随時撮影もしくは録画していきます。

デジタルカメラについては当ユニット専用の物を購入する予定です。そうして撮られた写真は厳選して各ご入居者のアルバムに収め、家族に常時開示いたします。(プリント代についてはセンターオフィスと相談します)

また、パソコンやタブレットでの公開も検討中です。

家族から写真や動画の希望があれば実費でペーパープリントや DVD ライティングをし・配布します。

当ユニットには看取り対応のご入居者が1名おり、ご入居者や家族・ユニット職員にとっても思い出作りに一役買ってくれるものと確信します。

#### ④ハイテク福祉機器の推進

職員の腰痛予防・緩和のため、リフトなど介護負担を軽減できる機器を積極的に活用します。

また現在の介護ロボットの進歩は著しく、人の手でなければ難しかった排泄介助でもロボットが行えるようになりつつあります。

当ユニットには頻尿故に夜間眠りが浅く、日中傾眠傾向のご入居者がおります。仮に尿吸収ロボットを導入することができれば、排尿を気にせず眠ることができ、日中の生活の質が向上することが期待できます。

ハイテクな福祉機器はご入居者・職員双方にとって身体的・精神的負担を劇的に減らす可能性を秘めております。コスト試算や稟議、ご入居者・ご家族の同意など、越えるハ-

ドルは数多くありますが、ロボット委員会と協働し、導入に向けて検討する計画でおりません。

⑤他職種との関わり

例えば外出の希望があったとき、腰を据えて話を聞いてもらいたいとあったとき、ユニット内で仕事をしているとどうしても職員 1 人だけになる時があり、ユニット内だけでは希望に沿うのが難しいケースが出てきます。

タイムリーに対応が難しい時は、協力ユニットや他職種職員と連携し見守りなどの支援を受けられるよう調整を図っていきます。

⑥シフトについて

ご入居者の個々のニーズや生活習慣に合わせていると、どうしても従来のシフト時間ではそぐわない場面も往々にしてあります。

行事などで特に人員配置が厚く必要な場合には、シフトを0.5~1時間ずらしたりする等フレキシブルなシフト体制をユニット職員と合議のうえ検討します。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	1階Dユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	武部 留美子		
年度目標 テーマ	在宅生活での自立支援に向けたサービスと環境の提供 ～ご利用者が満足できるおもてなし～			
<p>《現状分析》</p> <p>昨年に引き続き、環境面での高評価が家族、各事業所のケアマネージャーから多く聞かれており、今後は環境面だけでなくサービス内容（個別ケアの充実、機能訓練、レクリエーション、やくらのショートステイ独自の楽しみを作る）の特色を持たせ、更なる強化が課題であると感じています。</p> <p>各事業所との密な連携を図り、新規ご利用者及びリピーターの獲得を目指し、稼働率の向上・安定に取り組めます。</p> <p>[現状分析]</p> <p>(1) ご利用者・家族・居宅介護支援事業所との関わりの強化</p> <p>(2) 情報収集の強化と担当職員への周知の徹底</p> <p>(3) ショートステイと特養の空床を円滑利用する営業活動と各施設部門との連携</p> <p>(1) に関しては、特に新規利用者との関わりに重点を置くよう取り組んでいます。次回も利用していただけるように事前の情報を共有することでリスクマネジメントを行い、安全な生活とサービスを提供しています。退所時の利用状況報告書のみでなく、利用翌日の朝には担当のケアマネージャーに電話にて利用状況をお伝えし安心していただけるような体制ができています。</p> <p>(2) に関して、ショートステイの情報収集と情報共有は開設当初からの課題でもありました。フェースシートの様式を変更し、どの職員が見てもわかるように身体状況等は細かい項目を設け記載しています。更に在宅での環境に少しでも近づける為、身体状況だけでなく、自宅での生活の様子や居室の配置等、環境面の聴取を行っています。新規利用者や状態が変化した利用者に関しては、利用前に相談員、生活援助員、看護師等でカンファレンスを実施し、利用者の情報の共有、居宅サービス計画書の理解とケアプランに基づく個別ケアの実践の意識付けができるシステムが整ってきました。</p> <p>(3) に関して、今年度上半期は空床利用の実績がありますが、円滑な空床利用はできず、目標稼働率に届かない月もありました。特養での入院者がでた場合の迅速な関係事業所への空床情報の提供と各部署との連絡調整と施設内連携が課題となっています。また、空床利用時は、担当する特養ユニットや職員との情報共有の重要性と在宅サービスへの理解を深めていくように取り組んでいきます。</p>				

### ①個別ケア

- ・在宅生活を継続できる環境とサービス提供を行うにあたり、ご利用者及びご家族に安心して利用して頂ける体制を築きます。ケアマネ、ご家族から情報収集の際に、ご利用者一人ひとりの希望や生活リズムを伺い、できるだけ要望に沿ったサービスを提供し、自立支援を基本とした満足できる安心・安全な生活を実現します。
- ・季節を感じて頂ける植物や装飾・行事・アクティビティーの取り組みを行います。在宅生活の中で、他のサービスを利用されている為、退屈しないような体操、ゲーム、物づくり等を準備し、好きなものに自由に参加できるようなサービスを提供します。又、希望があればショッピング、ドライブなどの外出や野外への散歩も計画します。急な希望があった場合でもタイムリーな対応ができるように、他部署との協力やご利用者のニーズに合わせた勤務体制を作ります。
- ・ご利用者の食事に対する要望については、栄養士、給食業者と協力しながら、定期的なバイキング食や選択食を取り入れ、冬場のロングのご利用者でも、楽しく変化のある食事を提供します。
- ・おやつはご利用者個人で好きなものを準備して頂いていますが、家庭的な雰囲気とご利用者同士の交流を深めるためにも週に1回はユニット費を利用して一緒に手作りおやつを楽しみます。要介護度が軽く、元気なご利用者が多いことから、周りを気にして遠慮されたり気を遣われる場面があるため、グループ体操後に皆さんでお茶を楽しめるようなサービスも視野に入れ検討したいと考えています。
- ・希望されるご利用者は、地域にある施設訪問や小・中学校の行事に参加したり買い物に出かけたことで地域との交流を持ちます。
- ・ご利用者の希望に沿った個別の昨日訓練や残存機能を活かした日常生活のリハビリを行い、在宅生活を継続できるような自立支援を心掛けます。

### ②職員の専門性の向上

サービスを提供するユニット職員がご利用者に対し、専門的な知識や技術を持ち、ご家族への在宅生活でのアドバイスもできるように在宅ケアの勉強会を実施し、担当者会議・部外研修へ参加することでスキルアップを図ります。また、職員のメンタル面でのケアも重視し、ユニットリーダーが定期的に個人面談を実施・助言・きめ細やかな指導を行い、各職員がチームの一員として働きやすい職場環境を築きます。不安な職員に対しては、ユニットリーダーに報告し面談を実施、必要であればメンタルヘルス担当者へつなげます。

### ③事故防止の取り組み

2013年度も転倒による骨折の自己報告が1件ありました。入所前のカンファレンスを実施、情報共有を徹底し、毎日の利用状況を確認するミーティングを継続することで環境整備と合わせたリスクの軽減につなげた事故防止を行います。また、事故原因となる危険因子を減少させる為、ヒヤリハットを多く提出する気づきの強化を行います。転倒リスクの高いご利用者には巡視強化や見守りが出来る居室配置を考えて対応します。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	2階フロア	役職名	フロアリーダー
	氏名	夏井 隆志		
年度目標 テーマ	より充実した個々の生活を、ご家族と共に寄り添っていく			
<p>《現状分析》</p> <p>来年度で3年目を迎えることとなるハピネスやくらは従来型から、個別ユニット型へ移行し、ユニットケアの基礎は、形として出来てきたのではないかと考えます。</p> <p>引っ越し後、1年目は職員が業務をこなすことで精一杯の毎日でしたが、2年目はユニットの生活を理解できる職員も増え、クラブ活動や行事等が活発に行われ、毎日の生活の中にも楽しみが増えました。学習療法に取り組んでいるご入居者は、自分の学習療法の日を把握したり、生活パターンを自分で組み立て、自分で入りたい日に入浴をしたり、行事がある時は自分で鏡を見ながら化粧をしたり、ご入居者からの要望なども多く聞かれるようになり、1年目と比較し、ご入居者自身の生活スタイルをご自身なりに確立してきている方が増えてきています。</p> <p>起きたい時間に起き、好きな場所でご自分の好きな分だけ食事をし、ご自分の好きな日に入浴し、寝たい時にご自分の居室で休む、という当たり前の生活ができてきています。</p> <p>また、職員は昔のような一斉一律のような介護は払拭し、出来る限りご入居者の望む生活をユニット職員、やくら全体、ご家族にも協力を頂き、一丸となり生活を支える努力をしました。</p> <p>《今年度の目標》</p> <p>2014年度の2階フロアの年度目標は「より充実した個々の生活を、ご家族と共に寄り添っていく」とし、ご入居者の入居前の生活を理解し、その方らしい生活をユニット職員がチームとして、またご家族にも協力して頂き、ハピネスやくらでの生活が、より充実するように援助していきます。充実した生活を継続することは、生活の延長線上にある看取りに繋がり、「やくらで暮らして良かった」と、振り返った時に後悔なく、ご家族にも満足していただけるように支援して参ります。</p> <p>入居前の生活だけに重点を置くのではなく、現在（今）のご入居者の嗜好や希望、その瞬間の意思や判断も大切にして、可能な限り寄り添っていきます。</p> <p>① 個別ケアについて</p> <p>ユニットの理解を深めつつ、今年度はご入居者の生活に重点を置き、その方の望む生活スタイルの実現に向け職員が支援します。充実した生活が送れるような体制を作り、ご家族と共に寄り添っていきます。体制作りを行うにあたって、介護職員だけの援助だけでは</p>				

なく、他職種協働で支援します。また個別ケアは、ご家族の協力無しでは生活を支える事はできません。ご家族にも協力を頂き日々の生活を一緒に支えていきたいと思いをします。

〈ご家族に協力を頂くために〉

- ① 新規入居時の「暮らしの情報シート」記入の継続
- ② 定期的なご家族との面談、個別ケアへの理解（居室担当、ユニットリーダー）
- ③ 家族に対し、行事やご入居者の居室の環境整備依頼
- ④ 家族と一緒に生活スタイルを考え、共有していきます。

〈職員の行動計画〉

- ① ご家族との信頼関係の構築
- ② 接遇対応マナーを学ぶ・コミュニケーション技術向上
- ③ 定期的なご家族との面談（情報収集、意見交換、情報共有）
- ④ 定期的な面会の推進
- ⑤ ユニットケア・個別ケアの理解

上記のような計画で、個別ケアを充実した物にしてご家族と協力して、ご入居者に寄り添っていきます。

個別のケアを行うにあたって、職員の勤務時間を考慮し、必要に応じて変更も視野に入れていきます。また、ご入居者と語り合う時間が確保できるような業務の組み立て、語り合う場所などの環境整備にも取り組んでいきます。また、ご入居者の訴えにはその場で足をとめ、聴き入れ、対応していきます。

エレベーター前には季節を感じられる花などを置き、2階多目的ホールは憩いの場所として月刊誌を置いたり、カラオケを行うスペースを確保して、毎日の生活の中に楽しみを取り入れていきます。

〈民主的運営〉

毎月開催される「楓の会」に、ご入居者が自主的に参加していただけるように声掛けをして、施設運営に関わっていることを自覚して頂き、職員とご入居者と共同で施設運営に関わっていきます。また、楓の会では会長、副会長、書記などの役割をご入居者にもそれぞれ分担して役割を全うして頂きます。

施設行事の際には、「楓の会」を通じ、積極的にご入居者の意見を取り入れていきます。

〈職員の専門性の向上〉

・チューター制度を導入し、チューターによる新任者育成システムを導入していきます。新人職員は仕事の疑問などを担当チューターに相談したり、目標に向かって日々勉強していきます。育成担当のチューターは、育成することにより自分の勉強にもなりユニット（チーム）としての能力アップを狙っていきます。

- ・介護福祉士の勉強会を引き続き行い、資格取得に向けた援助を行います。
- ・スキルアップの為に予算を有効に使い、職員のスキルアップに繋げていきます。

#### 〈防災への取り組み〉

年3回の防災訓練を行います。訓練を通し防災への意識付け、有事に速やかに対応できる体制作り、災害協力隊も交え実戦に近い状態での総合訓練を行うことにより緊張感を持ち協力隊との連携が上手く機能するように訓練を行っていきます。

実際に身を持って体験し訓練を行わないと、なかなか覚えられないこともある為、訓練の回数を昨年度より多くして体で覚えてもらえるように取り組んでいきます。

有事に備え、消防設備の自主点検の継続、防災グッズの管理・点検を兼ねて全職員が使用できるように実際に見て、触って、使ってみる取り組みの継続をしていきます。

#### 〈稼働率の安定〉

今年度の稼働率目標 97%を目指します。稼働率達成に向けて、まずは入院者を出さないようにユニット職員と看護の連携を密にして、ちょっとした変化に気付ける観察能力、対応能力の底上げをしていきたいと思えます。職員の医療に関する困っている事や疑問に思っている事を把握し、不安に思っている事はそのままにせず看護に協力してもらい勉強会を行う等を行いながら能力の底上げをしてご入居者の入院を抑えたいと思えます。

#### 〈職員の働きやすい職場の為に〉

職員が欠けることにより、入居者を観察する「目」と支援する「手」、コミュニケーションを図る「口」が行き届かず、タイムリーにニーズに応えることができなくなります。職員の体調管理は自分自身の役割でもありますが、相談しやすい環境を整え、定期的に個人面談を行い、体調やストレスレベルの確認、困っている事等の聞き取りなどを行い、働きやすい職場作りを目指します。

働きやすい職場であることによって離職率の低下に繋がると考えます。

#### 〈事故防止・苦情対策委員会としての取組〉

- ・ヒヤリハットを多く提出することで未然に防げる事故を防止し安全・安楽な生活の支援をしていきます。また、すべてのマニュアルを最終的に統括することにより業務やケアの統一化を図っていきます。
- ・事故が発生した場合は、他職種にて事故カンファレンスを行います。
- ・事故分析は、「SHELL様式」の活用、「なぜなぜ分析」、を行っていきます。
- ・各ユニットの事故分析を引き続き行い、ユニットの職員の意識向上を目指します。また、委員会では事故分析の結果をさらに分析して結果を各ユニットへフィードバックしていきます。

- ・気づきのトレーニングとして「KYT」を随時行ってもらいます。
- ・報告された苦情に関して速やかに対応し、同じ苦情が出ることをないように取り組んでいく。

《防災委員会》

有事に備え施設設備の管理、グッズの使用法の周知、訓練を重ねることで有事の際には職員が慌てることのないように的確な行動・指示が出せる体制を作ります。

福祉避難所であることを念頭に入れ、市からの要請があった場合や、直接訪れた場合に、福祉避難所としてしっかりと機能するように体制を整えます。また、地域住民が有事の際に気兼ねなく利用できるように発信していきます。

昨年に引き続き、地域交流スペースにて救命救急講習を主催し、職員が基本的な救命措置が出来るように習得してもらいます。また、地域の住民の方も参加できるように回覧板を活用したり、町内会の掲示板を有効的に活用していきます。

《NPO法人（オンブズマン）》

毎月1回来訪して頂いているオンブズマンは、ご入居者の代弁役、施設内の設備の事や、施設運営の事など、第三者の目と耳と口として施設職員が気付かない「気づき」などの助言を受け入れ対応していきます。助言などは施設の「財産」としてこれからも引き続き受け入れ、施設運営に活かしていきたいと思っております。



事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	2階Aユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	田中 達也		
年度目標 テーマ	その人らしく生活できる場 自己決定できる選択肢の提供			
<p>① 現状分析</p> <p>食事の時間、ほとんどのご入居者がダイニングに集まり、食事をしていることが多く見られましたが、一部のご入居者の方は目が覚めたら起床して頂き、食事をしている方も何名か見受けられる様になってきています。</p> <p>排泄介助では、ご入居者の排泄パターン・排尿量・身体機能を考慮し、排泄介助を行っています。又、排泄介助に必要な物品は、各居室に揃える事で必要物品を持たずに入室し、他のご入居者の方に悟られる事なく排泄介助が行えています。看護と協力し、下剤の調整ができていて、排泄介助の必要なご入居者でも、トイレで排便出来る様になっています。起床時・就寝前には、着替えを行い、夜間の良眠に繋げるようにし夜間ゆっくりと休んでいただいています。</p> <p>ユニット内に芳香剤等を使用し、排泄後の臭いを気にせずに過ごしていただいています。2Aユニットの特徴として、ご自分の意思表示が明確である方、活動性の高い認知症の方が多いことが挙げられます。そのため、ご入居者同士のトラブルや、認知症のご入居者への統一した声掛け・対応を徹底する事が不十分な場合に起こるニーズの吸い上げや対応が十分にできないことについて、最近では、職員がご入居者の間に入る等の対応を行った事で、ご入居者間のトラブルが減少しています。</p> <p>季節の花・野菜を育てた事で、ご入居者自ら手入れの方法や好きな花などの話を笑顔で話される事が多くなってきています。</p> <p>余暇の時間をほとんどリビングで過ごされるご入居者同士が笑顔で話されテレビを観て過ごすという事が日課になってきています。又、横になりたいというご入居者には速やかに臥床して頂くなど、ご入居者の希望に沿った対応が出来ています。</p> <p>② 個別ケア</p> <p>ご入居者の昔やっていた事、今やりたいと思う事を本人やご家族から聞き取っていき、やっていた事・やりたい事を実現できる様、ユニット職員で話し合い実現に向けていきます。</p> <p>ご入居者本人やご家族からの情報収集を行い、入居以前の暮らしに近づけていくと共に、ご入居者の方が生活しやすい様ユニット職員の勤務時間等を合わせていきます。</p> <p>ユニット全体で行っていた行事は、行事としてではなく、生活の一部として捉え、個人で行きたい所ややりたい事、やってみたい事等の情報を集め、気持ちの確認をし、本人が</p>				

主になり楽しめる様に計画していきます。

今までは注文で購入していたお菓子・ジュースを、実際にご入居者に、選んでいただいた物を購入し、本人・ご家族から聞いた情報だけでなく、ユニット職員が実際に目を見た情報をご家族に伝え、ご家族と情報を共有していきます。

食事時に本人が食べたい量、摂りたい分の水分量を取って頂き、栄養や健康面とのバランスをみながら、食事していただけるよう十分に配慮していきます。

### ③ 個別ケアを確立するための具体的行動計画

ご入居者が昔やっていた事(趣味等)や、今やりたいと思う事を、ご家族の面会時に情報を収集していきます。又、ご入居者と共に考える時間や場所を設け、本人から聴き取っていきます。本人が話せない場合には、本人の表情・態度から情報を収集していきます。ユニット職員がどうしてもいけば実現できるかカンファレンスの場を設け、ケアマネージャーと協力し、ケアプランに反映させていきます。

ご入居者の日々の生活の状況を近況報告だけでなく、面会時ご家族の方に情報を提供し、入居前の生活とどのように変化したかご家族の方から情報を収集していきます。ご入居者の入居前の生活とあまりにかけ離れている場合には、本人と確認し合い、ご入居者の要望に合わせて再度見直ししていきます。情報を元にご入居者全員が快適に暮らせるようスタッフの勤務時間を合わせていきます。その事でご入居者1人1人に関わる時間を多く持ち、ご入居者の体調・気分・思い等小さな変化に気付く力を身につけていきます。

ご入居者1人1人に多く関われるようになる事でご入居者のニーズを吸い出し、吸い出した情報を元にご入居者が主となり楽しめる行事を企画していきます。又、外出する行事を企画した際には、ご家族の参加も募りご入居者・ご家族が楽しみ、ユニット職員とご家族がコミュニケーションをとる場としても活用し、ユニット職員、ご家族共にご入居者の生活に寄り添い援助していきます。

近くにコンビニエンスストアが出来た事もあり、ご入居者と共に買い物に出向き、ご入居者に好きな物を選択し購入する事で入居前の中でしていた買い物を思い出してくれると思います。

今までは、ほとんどご家族から得ていた情報でしたが、ユニット職員が実際に得た情報をご家族と共有し、新たな情報を得る道具として活用していきます。

他職種と協同し今まで皆一緒だった食事の量も本人の希望に合わせ、今まで以上に食事の時間を楽しめるものにしていきます。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	2階Bユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	河村 佐保里		
年度目標 テーマ	家庭的な環境な中で支える暮らし ～一緒に過ごす時間を大切に～			
<p>① 現状分析</p> <p>安心して過ごせる場所（家）にするために、継続して食事の際はランチョンマットを使用し、一斉の食事から、食べたい時間に食べたい場所で召し上がっていただいております。ランチョンマットを使用することにより、ご入居者が「あのデザインのゴザっこ（ランチョンマットの事）は嫌だ」、「この色の前掛け（食事用エプロンの事）がいい」等の発言があり好みを知る事が出来ました。また、全員が施設備品の食器を使うのではなく、使い慣れた食器や箸で食事をしていただこうと思いきご家族に準備して頂き使用しています。</p> <p>また、椅子に座って食事を摂られる小柄な方には、既成の椅子は高すぎて足が床に届かない状況がありました。ご本人の体型に合わせ椅子の脚を調節したことで、安定した姿勢で食事を召し上がって頂いています。</p> <p>排泄では居室内にパット・ディスポ・ポリ袋・陰洗ボトル・石鹸・排泄バックを専用で設置することで、職員は手ぶらで訪室し介助しています。使用済みパットや汚染衣類は排泄バックに入れて退室するため、他のご入居者が見ても排泄物だと気付かれず、プライバシーを考慮することが出来ています。</p> <p>家の中でスニーカーを履かないことや、職員の疑似体験後の感想及びご入居者から、「足音が気になる」「足音で誰が歩いているかすぐわかる」という声があり、ユニット玄関で靴を履き替え、ユニット内はルームシューズを着用しています。さらに家庭内で制服は着ないということから、私服化に向けてユニット会議を活用して話し合いを行っています。有意義な会議になるよう、あらかじめ議案を出し意見を持って参加してもらっています。</p> <p>近況報告を見て面会に来て下さるご家族や、ユニット内に掲示している行事のポスターを見て参加して下さるご家族もいらっしゃいます。しかし、ご家族から「一緒に参加してもいいですか？」と聞かれることが多く、職員発信で呼びかけられていないことや、面会時声を掛けることは出来ても、コミュニケーションの内容が薄いことが現状です。関わりを多く持てるよう声は掛けてはいるものの、近況の報告や世間話になりがちで看取りへとつながる思いや希望を聞き出せていない課題があります。</p>				

## ② 個別ケア

家族懇親会以外でも、職員発信でユニット行事や外出への参加・協力を求めご家族と信頼関係を深めること、今年度はユニット職員のコミュニケーション技術をより高めて気持ちを共有し、ご家族とご入居者が一緒に過ごせる時間を大切にし看取りケアへ繋げていきたいと思ひます。

家族やご入居者から情報を収集し、好きだったことを行って過ごして頂こうとしましたが、「昔は好きだったけど今は嫌いになった」、「何もしなくていい」等の声や「本人のやりたいように制限をかけないで生活して欲しい」等の声があるため、ご家族・ご入居者の思ひを傾聴し充実した余暇生活を過ごして頂きたいと思ひます。

新規入居されたご入居者もいるため、必要な時間帯に合わせた職員配置・勤務時間のパターンを増やすことを視野に入れ、タイムリーなケアを行い、ご入居者の望む生活を送って頂きたいと考えています。

ユニット一律の行事を行うのではなく、その日の気分や天気、個人の趣味に合わせた外出を行っていき、家にいる時の様に自由に生活できるよう支援していきたくと思ひます。非日常的なことだけでなく、いつもの生活の中に楽しみを持って頂けるよう、庭作りや苗植えを行っていきたくと思ひます。外出時や行事等にはご家族への参加も促し、思ひ出を作って頂けるような体制を整えていきます。

## ③ 個別ケアを確立するための具体的行動・計画

- ・自分の目で選び、欲しい時に欲しいものを購入することで、生活の活性化に繋がり、イキイキと生活を出来ると考えます。向かいに出来たコンビニ、スーパーやファッションセンター・ホームセンターを活用し、地域や他者とのつながりを深められるようしていきたいと思ひます。
- ・余暇を楽しんでいただくために、居室担当が考えたことを、面会時にご家族に提案・相談し、意見をもらい一緒にご入居者の生活を支えて思ひ出を共有していきたいと思ひます。
- ・2階Bユニットは西日があたるため、3階バルコニーの一部にプランターを設置し、野菜作りや庭作りを行います。ユニット職員やご家族、ボランティア・他職種と一緒に水やり・収穫をしたいと思ひます。また、1階正面玄関横にもプランター設置し花植えを行います。学習療法スタッフが、学習後に散歩がてら外へ行き一緒に水やりを行います。
- ・ご家族がどのようなことを望まれているか等を聞き取りたいため、5月～6月上旬を目途に面談を行っていきたくと思ひます。4月の近況報告にお知らせを同封し、各居室担当が電話連絡でご家族と日程の調整を行います。日程を取りまとめ、ユニット職員の勤務・業務調整を行っていきたくと思ひています。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	2階Cユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	西村 舞		
年度目標 テーマ	安心できる生活の場の確保 ～希望に沿ったケアの実施～			
<p>①現状分析</p> <p>ご入居者一人一人の生活サイクルが出来てきました。</p> <p>24時間シートをもとに、起床の時間から食事の時間等を一人一人の希望に沿いケアを行うことが出来てきています。</p> <p>食事は、ランチョンマットを使用して一斉の食事から個々の好きな時間に合わせて提供出来ています。口腔リハビリの受診を行い適切な介助方法や提供方法を指導して頂きその方に合った食事を提供しています。</p> <p>排泄は、必要物品を全居室に揃える事で排泄に入っていると分からない様に配慮出来ています。排泄パターンを把握して誘導時間の変更や誘導回数の変更を行いながらトイレでの排泄に繋げるようにケアしています。</p> <p>入浴は、マンツーマンでゆったりとした雰囲気に入浴して頂いています。また、歩行可能な方には一般浴にも入って頂きいつもと違う入浴をして頂いています。</p> <p>住環境においては、居室に関してはご入居者によってまだ差がありますが、少しずつ家具等が増えてその方らしい居室へとなってきています。季節を感じて頂けるような環境作りは大変でしたが、ベランダに花や野菜を植えて一緒にお世話をし成長を楽しんで頂きました。</p> <p>ユニット内や他職種との情報共有がスムーズにいかないこともありましたが、現在は共有ノートを活発に使用して徐々に情報共有も徹底して出来ています。少しずつスタッフの気付きも増えてきています。</p> <p>ご家族とは、まだまだ信頼関係が築けていない方もいますが積極的にコミュニケーションをとり、少しずつですがご入居者のお話を聞く事が出来ています。</p> <p>②個別ケア</p> <p>ご本人とご家族から、どのように暮らしたいか何を望むのかを聞き取りながらスタッフ全員で統一したケアを行って行きます。また、生活の場であること、一人一人の家である事を常に念頭に置いて、ご入居者に安心して生活して頂けるよう寄り添ったケアを行っていきます。</p> <p>昔からやってきたこと、好きなことや趣味を引き出して、気兼ねなく取り組めるようにケアをしていきます。</p> <p>「行事」という枠に囚われず、好きな時に外出やショッピング、ユニット内で料理やお</p>				

やつ作りを行っていきます。また、ご入居者の誕生日にはその月の誕生会で祝うのではなく、誕生日にご本人の望むお祝いをしたいと考えています。またやくらの向かいにコンビニエンスストアが出来たため、定期的に利用したいと思います。

ご家族とは面会時に積極的にコミュニケーションを取り、昔の話や希望等を聞き出していききたいと思います。また、行事への参加も促していきます。

### ③個別ケアを確立する為の具体的行動計画

居室担当がご本人の希望や望むことの聞き取りを行います。同時にご家族からも面会時を利用して希望や生活歴を聞き出します。聞き出したことをユニット会議を利用して、ユニットスタッフ全員で情報を共有して統一したケアを行います。

ご入居者、ご家族が思う安心した生活はそれぞれ違う為、面会時に居室担当が聞き取りを行い、環境整備へ活用し安心できる生活の場を作っていきます。

ご本人やご家族から、昔やっていたことや趣味や好きなことを聞き出して気兼ねなく取り組んで頂くと共に、ユニット内での小さなクラブ活動として取り組んでいきたいと考えています。

「行事」という枠に囚われず、生活の一部としてドライブやショッピングを行おうと思います。ご入居者にどこに行きたいかや、いつ行きたいかを聞いて対応していきます。料理やおやつ作りも季節に沿った物から、ご入居者やご家族から聞き取りを行って得意だった料理やおやつを作って行こうと考えています。

誕生日は、ご入居者一人一人望むお祝いが違います。「外食したい」「ショッピングに行きたい」「映画を見に行きたい」等、様々な希望があると思われれます。その希望に出来るだけ沿えるように柔軟に対応して行きます。その際には、ご家族とも連携して、出来るだけ一緒に誕生日を過ごして頂けるよう促し思い出になる誕生日にしたいと考えています。これまではご家族の差し入れや注文によるおやつや飲み物の提供でした。向かいにコンビニエンスストアが出来たため定期的に利用して、自分で「見て、選んで、買う」という当たり前にやっていたことを取り組んでいこうと考えています。

ご家族とは面会時の他にも面談の機会を設けてお話を聞いていきます。また、事前に聞き取り事項の一覧を作成し、面談時にご家族に記入して頂いてそこから話を広げて様々な情報を聞き出して行きます。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	2階Dユニット	役職名	ユニットリーダー
	氏名	野口 照美		
年度目標 テーマ	充実した日常生活 気持ちに寄り添ったケアをおこなう			
<p>《現状分析》</p> <p>ご入居者、職員共にユニットの生活にも慣れ、一緒に生活していると実感できていると思われま。ご入居者と一緒にテレビを観て過ごしたり、体調が悪い方がいる時は、訪室して「ガンバレ!」と励ましたりする姿も見られていました。映画鑑賞クラブ、エアロビクスなどのクラブ活動が増えたことで、他ユニットのご入居者と交流する機会も増え、楽しみにされている方も多く、やくらでの生活が楽しいものになってきたように感じています。</p> <p>また、ご入居者の排泄パターンを把握し個人のパターンに合わせた排泄介助や、ご入居者の意思や体調に合わせることで、従来型のような決まった時間に離床したり、決まった場所で決まった時間に食事する事はありません。このように、ご入居者のストレス軽減や、ご自分の意志が尊重されることで以前より生活しやすい環境は整いつつあると思ひます。</p> <p>今年度は個別ケアに重点をおき目標を「充実した日常生活、気持ちに寄り添ったケアをおこなう」と掲げ、ユニット職員がチームとして、また家族として生活を支え気持ちに寄り添うケアを行っていきたくと思ひます。</p> <p>《個別ケアについて》</p> <p>「在宅生活の継続」が一番望ましい事ではあります。生活歴や以前の趣味などの聞き取りをした所、ご家族が情報を持たないケースも多く、また、職員の聞く力が及ばず、予想ほど情報が集まりませんでした。</p> <p>在宅生活を送っていた時の生活パターンや趣味、ご家族がやくらでの生活に望む事や、こうなつてほしい等の要望について、意図的に深く掘り下げて聞くことで、ユニット内で共有し、更にご家族と一緒に生活・気持ちに寄り添っていきます。</p> <p>行事においては、年間の行事予定に沿っていくのではなく、四季の変化を感じながら、ご入居者の意見、希望を伺い、ユニットで料理を作つたり、材料購入はご入居者と一緒に買い物に行き、観光やショッピングに出かける等、柔軟に対応できる体制を作りたいと思ひています。</p> <p>その際は、ご家族の参加を促し、関わっていただく機会を増やしていきたいと思ひています。出来る限り、ご本人・ご家族の希望を引き出し、希望に沿つたケアを行い、看取りケアにて終末期を迎えた際には、悔いを残さないようなケアを目指します。</p>				

過去の生活歴だけにとらわれるのではなく、今のご入居者の気持ちや望むことも大事に  
していきます。

《個別ケア実現に向けての行動計画》

個人の生活歴や嗜好などの把握の為に、今までは懇親会を開催して聞き取り調査や信頼  
関係を築いてきました。今年度は、ユニット単位で行うのではなく個々の余暇を計画し、  
ご家族にも協力いただき、楽しい時間をたくさん作っていきたいと思います。

このような機会に、ご家族からいろいろな情報を収集したり、意見交換を行い情報共有し  
ながら、今以上の信頼関係の構築に努め、共にご入居者を支えていきます。

ご入居者の希望などは、その場で傾聴し、気持ちに寄り添うコミュニケーションを図り、  
速やかに対応することにより、ご入居者のストレスの軽減、満足度アップに繋げていきま  
す。



事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	医療サービス部門	役職名	マネージャー
	氏名	中里 明子		
年度目標 テーマ	1人ひとりの健康ニーズ・生活ニーズに適した看護援助			
<p>2014年度は、その方らしい生活を支援する介護職と、健康レベルと生活ニーズに適合した援助方法の選択に関わっていく看護職及び各専門職が、協働で「ご入居者の生活を支える」という共通の目標に向け、チーム一体となって取り組みます。</p> <p>看護は、ユニットでの「生活」に視点を当てながら、専門職として日常の健康管理、ご入居者やご家族からの相談等に関わりながら、その方が望む日常生活を継続できるよう、又、過剰な医療の介入をおさえ、自然な老いをゆっくり歩めるように、ご入居者やご家族の気持ちを受け止め、願いに応えることができるよう援助していきます。</p> <p>～現状分析～</p> <p>2013年は、健康生活を支える援助とし、健康状態の維持や悪化防止に努めてきました。6月より嘱託医が変更となり、往診等医師による状態確認が速やかに行われ、内服薬の調整等細やかな対応が連携して行われました。その為、早期発見早期対応により施設内での治療が有効、悪化することはなく入院者数の減少がありました。</p> <p>看取り援助に対しては、嘱託医から家族への説明（インフォームドコンセプト）が行われ、看護による介護職やご家族の不安を払拭する支援を行い、ご家族も後悔のない看取り援助、安らかな終末期を迎える体勢ができ、支援する事が出来ました。</p> <p>看護体制については、担当ユニット固定化したことで、継続的な状態把握が行われ、ご家族、ご入居者、他職種との連携が安定した反面、看護間の情報共有に課題を残しました。感染症に関して、一旦終息した疥癬が、再び再発した為、専門医と相談の上、完治後の経過観察期間を延長するように切り替えています。</p> <p>1. 健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断（年一回実施・・・8月予定） 胸部レントゲン・心電図・血液一般・尿検査（70名在籍者全員対象）</li> <li>・定期採血の実施及びDr指示による採血</li> </ul> <p>看護職が健康を視点としたアプローチを行い、生活を中心としたアプローチを行う介護職等、その他の専門職と協働し、時には中心となり、時には後方支援しながら、健康で安全性の高い、その人らしい豊かな暮らしとなるよう目指していきます。</p>				

- ・介護職との協力にて健康管理に努めていきます。
- ・病状の悪化や新たな疾患の早期発見・早期対応への援助をしていきます。
- ・感染症を含む新たな疾患を発症しない予防的援助をしていきます。
- ・介護職への医療知識向上を支援し予測できるリスクに気づきができるように指導していきます。

## 2. 医療行為の指導と連携（喀痰吸引等第二号研修）

指導看護師を1名増員予定（計1名）

適切に喀痰の吸引ができる介護職員を養成するとともに、年度内で定期的に看護職と一緒に再確認する機会を設けます。

## 3. 嘱託医との連携

①やわたクリニック（高田Dr） 毎週水曜日 午後1:00～

②さくら病院（青木Dr） 第二・第四 水曜日

※認知症・精神疾患に対する療養指導

## 4. 介護職員・生活看護サービスの連携

ユニット目標や個別ケアプランに基づき、ご入居者の生活を支える両者の目指すべき目標を共有し、連携を深めていきます。

- ①相互の役割・意見を理解し、尊重する
- ②話し合いを基本とし、合意をはかる
- ③チームの一員としてお互いが対等な立場にある事を認識する
- ④目指す目標は同じである事を理解し、協働する
- ⑤それぞれが自ら決められた役割・業務を自覚し、責任を持って行動する

## 5. 口腔リハビリへの取り組み（口腔リハビリ委員会）

2012年度より口腔リハビリが導入され、誤嚥の防止やご入居者の摂食・嚥下に対し、リハビリや安全な食事への意識を高めながら機能に合った食事をして頂き、いつまでも安全に、楽しく、口から食べれるよう支援していきます

経口機能維持加算（I） 6名 経口移行加算 2名

- ・月一回の日本歯科大学付属病院の往診のもと実施⇒指導加算継続

口腔機能管理体制加算

- ・第3水曜日石岡デンタルクリニック院長の指示のもと実施

口腔ケアに関わる技術向上により、ご入居者の口腔衛生に努め、食事、虫歯や歯周

病を予防、誤嚥性肺炎の予防、生活にリズムをつけ、お口の中を清潔に保つ心地よさ、食事をする事の楽しさが続くよう支援していきます。

#### 6. 看取り介護支援体制

現在、看取り介護を行っている方は9名となっています。

加齢の過程で死を迎える死は、自然のプロセスに近いものであり、人生に一度しかない厳粛な最期の場面の選択であるといえます。その為、本人・家族・看取りに関わるスタッフの間で満足のいく看取りにするための合意形成が必要であり、ご家族や職員が一丸となって、日々の暮らしを特別に変える事無く、寄り添い、心地よく過ごして頂けるよう工夫しながら支援します。

- ・ご入居者の状態やご希望に基づいたアプローチをしていきます
- ・意向調査は、各担当・看護師・相談員にて聴取し現段階の意思確認をします
- ・最期を恐れとして受け止めるのではなく、最期に立ち会う事の重みとそこから学びとるものの大きさを感じとれるように、偲びのカンファレンスを開催していきます。
- ・チームケアを行う上で、コーディネートします。
- ・看取りについての研修を定期的実施していきます
- ・日々の暮らしが有意義であるように支援します。

#### 7. 看護職員配置

- ・5名の看護体制にてシフト管理となる（正看護師 2名）（准看護師 3名）
- ・担当ユニット固定化とする
  - ）ユニット介護職員と普段の日常からご入居者について情報共有
  - ）直接的なアドバイスや指導・助言を行っていきます
  - ）地域密着型ユニットに機能訓練配置（准看護師）
- ・夜間～オンコール体制

#### 8. 感染の発症予防と対策（インフルエンザ・ノロウイルス等）

年度初回の委員会で、マニュアルを見直します。

感染発症を予防するために、ご入居者や職員の健康管理、職員に対する教育、面会者への啓蒙活動を行う等、看護中心に対策を検討し、発信します。

- ・感染予防委員会を中心とした活動
- ・地域における発生状況を随時情報収集と早期対応
- ・基本である手洗いの抜き打ちチェックを実施（年1回）入職時には手洗いの教育

- ・施設内感染予防研修 年2回実施 6月 10月
- ・自身の健康管理（感染源・媒介者にならない事）
- ・感染に対する知識（予防・発生時の対応）の習得と実践対応

#### 9. 褥瘡予防と対策

2013年度は褥瘡の発症者が4名、3月現在で2名となっています。

1名は最終的に外科的処置が実施され、現在は経過良好となっています。

褥瘡のケアの基本は予防であり、そのためには個々の発生の危険性を予測する必要性やご入居者の全身の観察が必要となります。

目標・・・褥瘡「0」を目指します

- ・活動は、褥瘡委員会中心
  - ・介護職一人ひとりの知識量や理解力等を見極め教育支援をしていきます
- 段階別研修 年2回実施
- ・実技については、看護職と一緒にいき、自分の手技について確信持てるように直接現場での指導をしていきます

#### 10. リスクマネージャー

医療サービス部門マネージャーは、施設長を委員長とする「職場安全委員会」に於けるリスクマネージャーを兼務します。

組織内の各部門、その他の施設内委員会等との調整をはかり、リスクマネジメントシステムに関する連携や改善を行い、実行力のある対策の議論や活動へと繋げていきます。

職場安全委員会として統括する委員会は以下の通り。

- ① 事故苦情対策委員会
- ② 感染予防委員会
- ③ 褥瘡委員会
- ④ 身体拘束委員会

※各委員会の活動計画は、委員長が立案

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	医療サービス部門	役職名	機能訓練指導員
	氏名	成田 沙和美		
年度目標 テーマ	生活を楽しみ、「生きる姿勢」を保ち続ける			
<p>2014年度は、昨年度に引き続きご入居者の残存能力や機能の維持・向上を行い、その中で各ユニットや他部署と協力していく中で、生活を楽しめ、個々の生きる姿勢を保ち続けられるような機能訓練を提供していく事を目標に、以下に機能訓練の事業計画を立案します。</p> <p>1. 個別機能訓練計画</p> <p>看護との協力、情報共有に基づいた個人個人の生活パターンの把握、残存能力の適切な評価・確認を定期的に行い、より個別性を重視した機能訓練計画の立案・実施を行っていきます。また、新規入居時にはスムーズな評価を実施し、生活援助員への指導、助言を行っていきます。昨年度から、試験的に週1回、2ユニット単位での集団体操を実施しています。今年度も、引き続き集団体操を実施しご入居者同士の交流の機会を設けていきたいと思ひます。</p> <p>地域密着型の個別機能訓練に関しては、担当の看護職員や生活援助員と協力し、必要に応じて個別の機能訓練計画書を作成し、評価を行っていきます。</p> <p>リハビリ専門職として、カンファレンス等では具体例を挙げつつ、生活援助員が理解・実践しやすいような説明を行い、ご入居者に適切なポジショニングを提供できるよう生活援助員や看護職員へ指導していきます。</p> <p>2. 福祉用具の導入計画</p> <p>ご入居者の生活の質の向上と事故防止、加えて職員の腰痛予防のため、今年度は、床走行式のリフトの導入を検討しております。昨年度は、青森県社会福祉協議会より約3週間程度、床走行式リフトをデモンストレーションさせて頂く機会を設け、生活援助員に実際に使用してもらいました。今後は、他メーカーの床走行式のデモンストレーションの実施を行い、リフトや吊り具の購入を進めていきます。さらに、スライドボード等の導入やこれらを使用しやすい、モジュラー型の車椅子の導入を進め、どのご入居者にどのように使用すれば良いか、適切な評価と生活援助員への指導を行っていきます。</p> <p>現在、使用している車椅子の劣化が著明に見られ、昨年度も車椅子の修理・廃棄を行っております。また、ご入居者の重度化や災害時等を考慮すると、リクライニング車椅子等も不足が見られるため、適宜導入を進めご入居者の生活を支援していきます。</p> <p>エアマットに関しても数が不十分のため導入を進め、感染の防止や褥瘡ゼロを目指し、</p>				

ご入居者に適切な福祉用具が選択されているか確認、修理の依頼などを行っていきます。

### 3. 機能訓練指導員配置計画

2013年12月より、機能訓練サービス部門は理学療法士と柔道整復師の2名体制です。理学療法士が2月より産休で不在のため、不在の間の機能訓練、カンファレンス、委員会等へ参加し、入居者様へ確実な訓練、生活援助員への指導などを継続して行けるように、行っていきます。

### 4. 個人用車椅子の導入推進計画

2013年度は、ご入居者個人に合った車椅子を作成するために、ご家族の協力や近隣の身体障害者認定医の協力を頂き、身体障害者手帳を利用して1名の方がオーダーメイドの車椅子を作成しています。また、車椅子の個人購入を行い、ご入居者の安全な移乗や食事介助、快適な座位姿勢を取る事で離床時間の拡大に繋がり、ご入居者・家族・職員からも喜ばれています。

2014年度も引き続き、必要性のある方に対して身体障害者手帳を利用した車椅子の作成や個人購入を進めていきたいと思っております。

### 5. 口腔リハビリへの取り組み

2013年度は、フロアリーダーやユニットリーダーなどの生活援助員が中心となり、口腔リハビリへの参加が行え、専門職がサポートするよう関わっていったと思われまます。また、生活援助員もご入居者に対しての食事介助や安全への意識を高める事が出来てきたと思われまます。スクリーニングテストに関しても、各専門職やユニットリーダーへの指導は行いましたが、実践に関しては不十分なため、適宜確認・指導を行っていきたくと思っております。また、新入職員に対しての口腔リハビリの指導や、必要に応じて今までの口腔リハビリの映像を活用した勉強会の企画・実施を行っていきまます。

### 6. 学習療法への取り組み

ご入居者の認知機能の低下・予防に努め、身体機能や認知面等にどのような変化が見られるか、専門職種として評価し関わっていきまます。

### 7. 職員への勉強会計画

昨年度は腰痛予防対策指針が改定になった事もあり、時事的な事も勉強会の一環として紹介し、腰痛予防の為に体操や、ポジショニング等に関する勉強会を行ってきまました。今後も、職員のスキルアップや腰痛予防、基礎知識を復習する機会を設けるため勉強会を開催していきたくと思っております。

8. 研修参加計画

ご入居者の生活の質や機能訓練の質が向上するように、各種の研修会の情報収集を行い、参加していきたいと思います。

9. その他

昨年度は、機能訓練部会が立ち上がり、法人内での業務の効率化に向けて話し合いと研修が行われました。今年度も引き続き、機能訓練部会を通して他施設の業務内容の確認、研修会を通じ、機能訓練の質の向上、交流を図っていききたいと思います。また、専門的知識を活かして各委員会への参加、事故の分析等行っていきます。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	センターオフィス	役職名	マネージャー
	氏名	田中 理恵子		
年度目標 テーマ	フロント業務の充実 ～繋ぎの役割～			
<p>昨年 11 月事務職員 1 名増員に伴い、土曜・祝日を 2 名体制にしました。(日曜日のみ 1 名) ご家族の面会、来客、居宅支援事業所等の電話対応にご不便をおかけすることなく、また、面会時にカフェをご利用くださる方への対応もスムーズに、さりげない会話の一言二言が身につくようになりました。3 年目のセンターオフィスは、フロントとしての機能を充実させることはもちろんですが合わせて、関わる方々へ言葉や気持ちを繋いでいきます。そして常にお客様を気持ちよく迎えられるフロントでありたいと思います。</p> <p>(1) 事務全般 センターオフィスとしての役割</p> <p>①フロント業務心得</p> <p>施設の第一印象、入り口はフロントから。それは笑顔であったり、電話の声であったりしますが明るく元気に正しい挨拶の基本を身につけ、即時に施設の評価を問われる部門であることの自覚と緊張感を持ちます。姿勢を正し積極的な声掛け、言葉使いに於いては依頼系をはじめ、相手の方の人権、人格を尊重し失礼の無いよう配慮します。</p> <p>初めて面会に来られた方にはEVの利用の仕方、ユニットの説明をしながらお部屋までご案内します。施設入所・申込相談について飛込みで来訪された方に対し、待たせることなく担当に繋ぐよう連携を図ります。簡単な施設案内、説明を事務職員は共有し見学に対応できるようにします。また、建替えになる館公民館の会議室の代替機能として、1 月より地域の皆さまに会議室、機能訓練室を使用していただいておりますが、地域で見守られていることに感謝してお迎えしたいと思います。</p> <p>インフォメーション、カフェには季節感を持たせた装飾を施し、目で楽しんでいただけるように、さらにパンフレット等を揃え情報のご案内ができるようにします。また感染症予防強化時期には、すべてのご来訪者へ手洗い・うがいをお願いし、感染を防ぎます。</p> <p>②カフェ・ショップの充足</p> <p>面会時には寄ってくださるご家族、日常の中にコーヒータイムを作られたご入居者、会議に来られた地域の方々、カフェを利用される方が増えてきましたが、正門から遠く入りづらさがあるのではないかと考えます。案内ボードを設置する、メニューを工夫する等リニューアルを検討します。ショップでは日用品やハピネスはちのへの福祉物販を展示販売し、商品も充実しましたが利用者は限られてきました。2 月末には施設向いにコンビニエンスがオープンしており、ショップの内容も検討します。</p>				



③事務業務の役割

ご入居者に、心地よく楽しく安心してお過ごしいただけるように介護職員、看護職員のサポートをします。他職種職員間への連絡、電話の取次ぎを始め物品の購入・在庫管理等細部に渡ること、主流であるご入居者援助が円滑に、支障なく行えるように支えます。

④職員の質の向上

一般事務のみならず、介護保険制度・医療保険等広く知識を習得します。職員間に技術の差異をなくするため、常に他者から学ぶ姿勢を保ちます。

(2) 会計

①一般会計処理

法人本部会計担当の指導をいただき、日々の伝票処理、月次報告、業者支払、小口現金管理、ご入居者立替等適正な処理をします。会計担当を増やしたことで、当日の伝票処理、未払い・未収の管理ができます。

②介護報酬請求

国保連・利用料金担当者に協力し間違いの無い請求、未収金確認をします。利用料徴収については口座振替100%になるように呼びかけ、とりこぼしが無いようにします。

③予算管理

予算の作成には実績に倣い、執行には無駄の無いように努めます。経費については社会情勢、社会資源を視野に入れ節減に努めます。業者の選定にあたり、地域との連携、協力を仰ぐ上から地域業者との関係を構築していきます。

④担当者の技術の向上

会計基準の改正を踏まえ、研修会に参加する等情報の習得に努めます。

(3) ご利用者管理

①利用料管理

利用料請求にあたっては「間違いの無いこと」を第一に、立替金、利用料金の請求を行います。ご家族がわかり易く納得いただける文章をつくります。

②証書管理

証書・保険証等のお預り、お引渡しについて確認書の作成はもとより、原本の保管、情報の保護を守ります。

(4) 労務

①入退職時手続きに関すること

職員の生活基盤の安寧を図るため、就業規則に則り速やかな手続きを行います。税金、社会保険等、本人の損失になることの無いよう情報を提供します。

②職場環境・健康管理に関すること

安衛法上、衛生管理者を配置し月1回の衛生委員会を実施、職員の声を吸収し、快適で安全な職場環境を作り、心と体の健康に寄与します。事務においては法定健診実施を担い、腰痛予防のためにと、365日11時30分に流すラジオ体操は4年目になります。

「衛生委員会」は、議長1名、衛生管理者1名、産業医1名、職員代表6名で構成し、毎月第4火曜日に開催します。職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労働災害の防止を目的としますが、具体的に「職員の離職対策」に視点を置き、そこから見えてくる問題点に取り組んでいきます。障害となる残業量・職員間の情報希薄・休憩時間・腰痛、環境等について実態を把握し改善案を提案していくと共に、メンタルヘルスマネジメント有資格者の相談窓口を設け、職員の声に耳を傾けます。また産業医による衛生教育を計画し、調整を図ります。施設の労災で一番多い腰痛については、衛生委員会と離し「腰痛改善委員会」を設置します。

(5) 環境整備

ご入居者、来訪者の方が気持ち良い空間を感じられるように清潔に努めます。施設内外、正門脇のバス停の清掃、隣接市道、国道ご近所にも目を配ります。3年目の建物を新しいままで維持するように、職員に呼びかけます。

(6) 当直

夜間におけるご入居者の安全を確保すること、緊急時・災害時・大雨・大雪時のスムーズな対応、職員召集をします。当直時の電話、来客対応について、日中同様の意識づけをします。専門当直者の他、職員が月5日当直に入るため、防災委員会の協力を得て随時マニュアル検証をします。尚、当直要員は新入職員の場合3ヶ月を経て実施することとしています。

(7) 学習療法

導入より1年10ヶ月を数え、ご入居者の日常に溶け込み、19名の学習者(内2名休止中)41名の学習スタッフにより定着して参りました。昨年からもん学習療法センターの先立ちで、青森県南地区ネットワーク作りの幹事施設・事務局を担当し、1月には「や~れ南部の会」の発足に至りました。施設に於いては、このネットワークに情報の収集・発信、意識の変化・発見等を期待し活用していくことと、学習療法を日常のケアプランに繋げてい

くことの、2本立てで進めていきます。学習者の目標や様子や変化を、ユニット職員目で観ていただきます。

「学習療法委員会」は3ヶ月毎の第1月曜日に開催します。全体の状況把握、各ユニットからの問題提起等収集、検討、方向付けを行っていきます。円滑な運営のための教材準備、環境の整備を適宜行います。また今年度は、施設内でミニ事例発表を計画し、この2年の成果を話し合い職員の理解度を深めていきます。さらに育成士の養成、スタッフの養成を積極的に勧め、全職員が学習療法に携わることを目標にします。これは、施設長方針の「脳の健康教室」開催に大きな力になると思います。

(8) その他

東日本大震災から丸3年が経過しました。私は移譲前の「やくら荘」で地震を経験しました。当時、従来型54名のご入居者を精一杯に護る職員の姿に感動したことを覚えています。古い建物、寒くて真っ暗。職員は自宅から石油ストーブやカイロを持ち寄っていました。私が家族なら、母が、父が施設に居てくれて安心したと思います。

災害時には人命の保護を一番に、その上でご入居者の日常が滞ることなく、また不安なく安心して生活できるよう関係機関との連絡、調整を図りライフラインの確保をはじめ最大限の対処をします。

事業名	特別養護老人ホーム ハピネスやくら			
作成者	部署名	食事サービス部門	役職名	管理栄養士
	氏名	下柘棚 美郷		
年度目標 テーマ	あなたらしい生活のサポート ～毎日のエネルギーは食事から～			
<p>2014年度施設長方針「1人ひとりの暮らしを支え、地域と歩む施設へ ～個別ニーズ、地域ニーズ、時代ニーズに応える施設づくり～」を受け、食事サービス部門では「あなたらしい生活のサポート ～毎日のエネルギーは食事から～」を年度目標、テーマとして立案致します。</p> <p>1. 厨房委託計画</p> <p>(1) ご入居者の日々の身体状態、食事摂取状況の変化や個々の生活スタイル・要望に合わせた食事提供に対応していけるよう、情報共有も含め、厨房との連携を図ります。</p> <p>(2) 地元にある旬の食材を使用し、“八戸ならではの食事”が提供できるよう、委託会社との交渉を行っていきます。</p> <p>2. 施設内、ユニットケアにおける食事サービスについて</p> <p>(1) 前年度に引き続き、ユニット炊飯は継続して行っています。また現在、1ユニットでのみ、おかずについてもユニット職員による盛り付けが実施できており、他ユニットについても順次取り入れていきます。</p> <p>(2) 昨年度の計画には挙げていたものの、実施には至らなかった、厨房職員によるユニットの調理設備を活用した食事提供を企画していきます。</p> <p>3. メニュー内容</p> <p>(1) 自分で食べたいものを選ぶという楽しみを感じて頂ける食事提供として、バイキング食・選択食を導入します。</p> <p>(2) 季節の行事を始め、日々の献立の中で食の記念日に因んだ行事食を企画していきます。また、ご入居者の誕生日を当日にお祝いできるよう、通常の食事に何か1品追加するなど、新たにお祝い膳を導入したいと考えております。</p> <p>4. 経口維持加算（Ⅰ、Ⅱ）、経口移行加算（口腔リハビリ）への取り組み</p> <p>(1) 2012年度より導入された口腔リハビリを受診する事により、現在、経口維持加算（Ⅰ）6名、経口移行加算2名となっております。「最期まで口から美味しく食べたい」というニーズに応える為、医師の指示を基に計画を立案、多職種協働で取り組んでいきます。</p>				

(2) 口腔リハビリについては、生活援助員が中心となって進めていけるよう、専門職としてサポートしていきます。また、生活援助員のご入居者に対しての食事介助や安全な食事への意識を高めていけるよう、必要に応じて勉強会の実施も計画していきます。

#### 5. 嚥下食への取り組み

ソフト食については、厨房委託会社と協議のもと取り組んでいきます。年度内提供を目標に、計画的に献立へ取り入れていきます。

#### 6. 看取りケア

栄養管理だけでなく、利用者の状態と嗜好に応じた食事の提供が行えるよう体制作りを行います。また、「最期に何を口にしたいか」ご本人、ご家族の意向に寄り添ったケアを行います。

#### 7. 衛生面への取り組み

(1) ユニット内キッチンの清潔保持を徹底していきます。感染症委員会で作成したチェック表を活用し、清掃が確実に実施されているか定期的に確認・指導を行っていきます。

(2) 異物混入発見時、食中毒発生時には各マニュアルを活用し、栄養士不在時にも迅速に対応できるよう、各部署との連携を図ります。

#### 8. 料理クラブの開催

昨年7月より月1回料理クラブを開催しており、今年度も継続して行っています。施設全体の取り組みとして、「入居者の生きた時代背景を知る」をテーマに始まったクラブ活動ですが、料理を通じて昔を思い出して頂くきっかけを作れればと考えています。

#### 9. 給食会議

施設長・各部署責任者・厨房委託会社・施設栄養士参集のもと、給食会議を適正に実施します。食事内容等について意見交換を行い、ご入居者、ご利用者に満足して頂ける食事サービスを目指します。

事業名	ケアステーションハピネスやくら			
作成者	部署名	居宅支援事業所	役職名	管理者
	氏名	小泉 明美		
年度目標 テーマ	人・地域社会・施設をつなぐ ～人が人を繋げ、地域がつながる～			
<p>ケアステーションハピネスやくらが開設し、1年が経過します。</p> <p>当初は五戸町11件からのスタートでしたが、現在は介護予防も合わせて八戸市19件 五戸町18件 南部町1件 合計 38件の活動をしています。</p> <p>昨年度は居宅支援事業所の周知を図るべく、館地区民生委員や地域の医療・福祉施設・ 関係機関への挨拶周りを行いました。</p> <p>地域の施設と連携し、『RUNTOMO-RROW（通称RUN伴：認知症の人や家族の 思いを知り、多くの人に関わっていける地域づくりを目指して1本のたすきをつないで走 るイベント）』『H25年度 田面木まごころネットワーク（徘徊SOS模擬訓練）』への 協力、その他八戸市ケアマネジメント事例学習会委員を通じ事業所のPR・ネットワーク 構築を図りました。</p> <p>10月には館地区公民館まつりへ参加し、社会資源としての『ハピネスやくら』を地域へ 発信しました。</p> <p>研修会では相談援助技術のスキルアップを図る為、主任介護支援専門員研修を受講。 行政主催以外の研修会へ参加する事で知識の向上を図る事が出来ました。</p> <p>今年度は現在の信頼関係を保ちつつ、人・地域社会・施設を繋ぐ役割を担いながら、さ らに「地域」へ浸透できるよう取り組んでいきます。</p> <p>I. 専門職としての相談援助技術向上と情報収集</p> <p>1) 介護支援専門員の資質向上が求められています。主任介護支援専門員として地域の介 護支援専門員と共に学び合いながら、地域の包括的ケアシステムを実現するために必 要な情報の収集・発信・事業所間の調整を行い、利用者の立場・視点に立ってフォー マルサービス・インフォーマルサービスの確保等を行いながら、相談業務・ケアプラ ン作成に努めます。</p> <p>2) 各関係機関の研修に積極的に参加し相談援助技術の向上・情報収集・連携を行います。</p> <p>3) 同法人内との情報交換・ケアプラン点検を行い、スキルアップに繋がります。</p> <p>4) 八戸市介護支援専門員連絡協議会事務局役員として協働し、地域のケアマネジャーや 関係機関とのネットワーク構築を目指します。</p>				

## Ⅱ. 第6期介護保険事業計画・地域包括ケアの構築

H25年2月現在八戸市の高齢者人口は24.3%です。全国では2015年には65歳以上高齢者人口が26.8%となり、大都市圏での高齢化率増加に伴い、高齢者世帯・高齢夫婦世帯の増加が見込まれています。

H27年介護保険制度改正にて要支援者が切り離されるなど、要支援者を取り巻く状況が大きく変化します。県の指針、市町村介護保険事業計画の動向を見極め、ご利用者様の立場や自立支援を意識した支援を行います。

- 1) 情報収集を進め、介護保険から切り離される介護予防利用者に対し迅速な対応ができるよう努めます。
- 2) 高所得者の2割負担等、制度改正に伴うご利用者様への説明責任を果たし、インフォマーシャルサービスの情報収集・紹介を行います。
- 3) 国・各自治体の動向を速やかにキャッチし、施設内会議での情報交換を行います。

## 《研修予定》

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修			ケアプラン点検			ケアプラン点検
外部研修	行政主催研修会	八戸市介護支援専門員等研修会	八戸市介護支援専門員等研修会	介護予防研修会	八戸市介護支援専門員等研修会	行政主催研修会
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修			ケアプラン点検		法人合同研修	
外部研修	八戸市介護支援専門員等研修会	行政主催研修会	介護予防研修会	八戸市介護支援専門員等研修会	行政主催研修会	八戸市介護支援専門員等研修会

Ⅲ. 健康寿命の延伸・社会福祉法人（社会資源）としての地域貢献事業

全国的に高齢化が進み、団塊世代が75歳となる2025年に向けて自主性や主体性に基づいた地域包括ケアシステム構築が推進されます。

現在の前期高齢者が健やかに生活し、老いることができる社会を目指し10年後も住み慣れた地域で自立して暮らし続ける為、生活支援・介護予防を視点に社会参加の促進を進めるべく、定期的に地域貢献事業「いきいきサロン（仮称）」を開設。定着を目指し、地域住民の方々に資源として還元し、ボランティアとして社会で活躍できる場所となるよう主軸となって体制を構築し、実現します。

内容として、『脳の健康教室』『健康体操』『口腔ケア指導』『栄養教室等』など効果的に健康管理ができるよう、週3回の定期的開催をします。

定員は10名。個別に関われるよう専任職員を配置し、市民ボランティアとして『八戸市シニアはつらつポイント』の活用を視野に入れ、活動できるよう支援していきます。

《地域貢献・事業計画》

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	情報収集 周知活動	利用者及び ボランティア 募集	いきいきサ ロン（仮） 活動開始	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン
			脳の勉強会	メイクアッ プ教室①	運動と歯の 勉強会①	減塩食 食 事の勉強会 ①
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン	いきいきサ ロン
	館地区公民 館まつり参 加・出品	やくら健康 まつり	メイクアッ プ教室②	脳の勉強会	運動と歯の 勉強会②	減塩食 食事の勉強 会②



事業名	居宅介護支援事業 ケアステーションハピネスはちのへ			
作成者	部署名	居宅介護支援	役職名	管理者
	氏名	磯嶋 早苗		
年度目標 テーマ	利用者・介護者のニーズに近づけるよう支援しながら、 信頼関係を深める。			
<p>支援に関わって数ヶ月しかたっていない為、信頼関係を築くことを目標にしてきました。これからは、利用者・介護者の支えになれるような支援をしていきたいと思います。又、専門職として医療依存度の高い方や看取りの方の支援もしていきたいと思います。法人内の充実したサービスを活かした支援にも力をいれていきたいと思います。</p>				
<p>1. 介護保険制度改正 第6期介護保険事業計画に向けて、早めの対応ができるよう情報収集をします。</p>				
<p>2. 地域との連携</p> <p>1) 地域の町内会長や町内のネットワークを通じて介護保険の説明会を開きます。</p> <p>2) 今年度の続き、事業所町内である、新荒町の三社大祭へ参加します。</p> <p>3) 介護支援専門員協会の研修会に参加し、ネットワーク構築します。</p>				
<p>3. 専門性の向上</p> <p>1) 各関係機関の研修に積極的に参加し、自分の支援方法の検討や他者の考え方を学びます。</p> <p>2) 介護支援専門員研修会へ参加し、相談や助言ができるような関係を構築します。</p> <p>3) 法人内の研修会へ参加し、自己研鑽していきます。</p>				
<p>4. コンプライアンスへの取り組み</p> <p>一人ケアマネとなる為、同法人内ケアマネージャーと定期的に、法令遵守について確認作業をいきます。</p>				
<p>5. 心身ともに健康で安心して就業する職場風土づくり</p> <p>どんなことでも相談でき悩みを共有できる環境をつくります。</p>				
<p>6. 稼働率の安定</p> <p>相談対応等で信頼関係を築き、利用者離れを防ぎ稼働率の安定を図ります。</p> <p>定期的に医療連携室へ挨拶に伺い、新規利用者獲得を目指します。</p>				

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度居宅介護支援事業所ケアステーションハピネスはちのへ  
事業計画&予算案

(単位；千円)

	2014年度			4月	5月	6月	7月	8月	9月		
	ケア 人数			1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
プラン 件数	居宅 介護 支援 費	1~39	要介護 1, 2	1,005 単位	26	26	26	26	26	26	
			要介護 3, 4, 5	1,306 単位	11	12	12	12	11	11	
		40~59	要介護 1, 2	502 単位							
			要介護 3, 4, 5	653 単位							
		60~	要介護 1, 2	301 単位							
			要介護 3, 4, 5	392 単位							
		小計			37	38	38	38	37	37	
		介護予防支援			391 単位	0	4	4	5	5	5
		総プラン数			37	42	42	43	42	42	
		初回加算			300 単位		3	3		3	
収入	居宅介護支援費			404	418	418	418	404	404		
	介護予防支援費			391/月	0	15	16	19	20	19	
	初回加算費			300/月		6		3		3	
	特定事業所加算 (I)			500/月							
	特定事業所加算 (II)			300/月							
	入院時情報連携加算 I			200/月							
	入院時情報連携加算 II			100/月		1				1	
	退院・退所加算			300/月					3		
	認知症加算			150/月	12	12	12	12	12	12	
	独居高齢者加算			150/月	6	6	6	6	6	6	
	認定調査			300/回	0	0	6	6	6	6	
収入合計				422	458	458	464	451	451		

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

(単位；千円)												
	2014年度			10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
	ケアマネ 人数			1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
プラン 件数	居宅 介護 支援費	1~39	要介護 1, 2	1,005 単位	26	26	25	25	26	27	313	
			要介護 3, 4, 5	1,306 単位	11	11	9	9	9	9	127	
		40~59	要介護 1, 2	502 単位								
			要介護 3, 4, 5	653 単位								
		60~	要介護 1, 2	301 単位								
			要介護 3, 4, 5	392 単位								
	小計				37	37	34	34	35	36	218	
	介護予防支援			391 単位	5	5	5	5	5	5	53	
	総プラン数				42	42	39	39	40	41	271	
	初回加算			300 単位					3	3	15	
収入	居宅介護支援費				404	404	368	368	378	389	4777	
	介護予防支援費			391/月	20	19	20	19	20	19	206	
	初回加算費			300/月			3				15	
	特定事業所加算 (I)			500/月								
	特定事業所加算 (II)			300/月								
	入院時情報連携加算 I			200/月								
	入院時情報連携加算 II			100/月		1		1			4	
	退院・退所加算			300/月			3				6	
	認知症加算			150/月	12	12	9	9	9	9	132	
	独居高齢者加算			150/月	3	3	3	3	3	3	54	
	認定調査			300/回	6	6	6	6	6	6	60	
	収入合計				445	445	412	406	416	426	5254	

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

〈研修予定〉						
上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修		地域連携 について		苦情対応 について		地域連携 について
外部研修	行政主催 研修	調査認定 員研修	地域ケア マネ研修 会			行政主催 研修
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修		高齢者虐 待につい て		法令順守 について		認知症の について
外部研修	行政主催 研修	行政主催 研修	行政主催 研修		行政主催 研修	〃
〈地域貢献〉						
上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	ゴミゼロ 運動参加		町内会 総会に出 席		三社大祭 参加	町内会長 民生委員 相談、情報 収集
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	ゴミゼロ 運動参加	町内会 総会に出 席 介護 保険説明	関係機関 挨拶周り		地域活動 へ参加	町内会長 民生委員 相談、情報 収集

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度【 ケアステーションハピネスはちのへ 居宅介護支援 】施設月別年間活動スケジュール表												
2014上半期				2014下半期								
第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		第3四半期		第4四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
基本日程												
稼働率 (介護) 状況達成												
各種会議・委員会			ハピネスはちのへ 全体会議			ハピネスはちのへ 全体会議			ハピネスはちのへ 全体会議			
人事管理(採用・研修・評価)	認定調査員研修			行政主催研修								行政主催研修
その他地域貢献活動等	530運動 就業前の事業所 周辺の清掃	民生委員へ挨拶 就業前の事業所 周辺の清掃	三社大祭 就業前の事業所 周辺の清掃			530運動 就業前の事業所 周辺の清掃	町内介護保険説明会 就業前の事業所 周辺の清掃					就業前の事業所 周辺の清掃

事業名	ケアステーションハピネスはちのへ			
作成者	部署名	訪問介護	役職名	サービス提供責任者
	氏名	岩澤 礼子		
年度目標 テーマ	「笑顔のある暮らし」 ～住み慣れた地域での生活～			
<p>在宅で生活される方々のライフワークに応じたニーズを把握して、住み慣れた地域の環境でより充実した生活ができるように、各個人の能力を活かせるようなサービス提供を目指します。</p> <p>意思や人格を尊重し、常に利用者様の立場に沿ったサービスの提供を行います。 又、関連事業所との情報の共有と連携を図り、信頼関係の構築に努めます。</p> <p>1. 関連事業所との連携と交流。</p> <p>1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの定期的訪問を継続していきます。</p> <p>2) 実績やサービス提供状況報告書等を持参し、情報の共有に努め、信頼関係を構築していきます。</p> <p>3) 空き時間情報を持参し新規地域の開拓を目指していきます。</p> <p>4) 介護支援専門員との交流を継続し、稼働率の増加に努めます。</p> <p>5) 法人居宅との連携を図り、法人内のシェア率の上昇を目指します。</p> <p>2. 知識と介護技術の向上。</p> <p>1) 各個人に合わせた目標を立て研修を実施していきます。</p> <p>2) ヘルパー部会（外部研修）に参加して、知り得た介護情報や知識・技術の伝達講習を行います。</p> <p>3) 毎月のミーティング後に内部研修を実施しスキルアップに努めます。</p> <p>4) 法人内の研修に参加させていただくと共に交流を図ります。</p> <p>5) 資格取得にむけ、自己研鑽に努めます。</p> <p>3. コンプライアンスの取り組み。</p> <p>1) 職員各個人が、業務基準に基づいて就業するよう指導していきます。</p> <p>2) 毎月の自己評価を行い、職員間で確認していきます。</p>				

4. 介護保険制度について  
改正情報をすみやかに収集し、利用者様や家族様に発信していきます。
5. 職員のメンタルヘルスケアについて  
職員が心身ともに安心して就業出来るよう、定期的に面談し問題点等について相談し、改善できるよう対応していきます。  
又、職員の腰痛対策として、朝の体操を取り入れて行きます。
6. 地域との連携  
地域の活動に参加し、情報の収集に努めます。  
ゴミゼロ運動      八戸三社大祭

〈研修予定〉

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内部研修 (個別)	介護保険 制度	緊急時の 対応	接遇	認知症に ついて	身体介助	生活支援
外部研修		ヘルパー 部会			ヘルパー 部会	
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内部研修 (個別)	感染症に ついて	記録につ いて	介護計画	移動・移乗 介助	事例検討	隣接医療行 為
外部研修			ヘルパー 部会		ヘルパー 部会	

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度 訪問介護事業所 ケアステーションハピネスはちのへ 事業収支			単位:千円													
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	
法人居宅ケアプラン数(介護)			9件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	11件	12件	12件	12件	11件	127件	
法人居宅ケアプラン数(介護予防)			2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	2件	24件	
他事業所ケアプラン数(介護)			10件	10件	10件	11件	11件	12件	12件	12件	12件	11件	11件	11件	133件	
他事業所ケアプラン数(介護予防)			5件	5件	5件	5件	6件	6件	6件	6件	6件	6件	6件	6件	68件	
訪問介護利用者数(介護)			19件	20件	20件	21件	21件	22件	22件	23件	24件	24件	23件	22件	262件	
訪問介護利用者数(介護予防)			7件	7件	7件	7件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	92件	
人員配	サービス提供責任者数		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	12人	
	常勤ヘルパー数		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	12人	
	非常勤ヘルパー数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	登録ヘルパー実働数		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	12人	
稼働時間	サービス提供責任者1人当たり	時間/月・人	80h	85h	80h	85h	85h	85h	85h	85h	80h	80h	75h	80h	985h	
	常勤ヘルパー1人当たり	時間/月・人	100h	110h	105h	110h	110h	110h	110h	110h	110h	105h	100h	100h	1275h	
	非常勤ヘルパー1人当たり	時間/月・人	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h	
	登録ヘルパー1人当たり	時間/月・人	80h	85h	85h	85h	90h	90h	90h	90h	85h	85h	80h	85h	1030h	
	総時間数		260h	280h	270h	280h	285h	285h	285h	285h	285h	270h	265h	255h	270h	3290h
収入	訪問介護(身体) ~30未満	255単位	102	102	102	122	122	123	123	123	122	123	122	122	1408千円	
	訪問介護(身体) 1h~1.5h	404単位	80	81	80	81	81	81	80	81	80	65	65	66	921千円	
	訪問介護(身1生1)	325単位	133	133	133	133	133	133	133	134	114	114	114	114	1521千円	
	訪問介護(身1生1夜朝)	466単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0千円	
	訪問介護(身1生2)	395単位	75	79	79	75	75	79	79	75	71	71	71	71	900千円	
	訪問介護(身2生1)	474単位	38	38	38	38	38	38	37	38	38	38	38	38	455千円	
	訪問介護(生活援助) 45h未満	191単位	96	96	96	96	95	118	118	118	126	126	118	127	1330千円	
	訪問介護(生活援助) 45h以上	236単位	118	137	137	137	137	137	137	137	130	130	118	131	1586千円	
	介護予防(Ⅰ)月	1,226単位/月	36	37	37	37	37	37	36	37	37	36	37	36	441千円	
	介護予防(Ⅱ)月	2,452単位/月	123	122	122	123	122	123	123	123	123	123	122	122	1471千円	
	介護予防(Ⅲ)月	3,889単位/月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0千円	
	初回加算	200単位/月	0	2	0	2	0	2	0	2	2	0	0	0	10千円	
	介護予防初回加算	200単位/月	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2千円	
	緊急時訪問介護加算	100単位/月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0千円	
	特定事業所加算(Ⅰ)	加算	20.0%												千円	
	特定事業所加算(Ⅱ)	加算	10.0%	80	83	83	85	84	87	87	87	84	83	81	83	1007千円
	特定事業所加算(Ⅲ)	加算	10.0%													千円
小規模事業所加算	10.0%														千円	
処遇改善加算		0.04%	35	36	36	37	37	38	38	39	37	37	36	36	442千円	
合計			916	946	943	966	963	996	991	994	964	947	921	947	11494千円	

訪問介護・介護予防事業所

項目	月平均値	単位	合計
身体介護 ~30未満	46	255単位/回	1408千円
身体介護 1h~1.5h	19	404単位/回	921千円
訪問介護(身体1生活1)	39	325単位/回	1521千円
訪問介護(身体1生活2)	19	395単位/回	900千円
訪問介護(身体2生活1)	8	474単位/回	455千円
訪問介護(生活援助) 45未満	58	191単位/回	1330千円
訪問介護(生活援助) 45以上	56	236単位/回	1586千円
介護予防(Ⅰ)月	3	1,226単位/回	441千円
介護予防(Ⅱ)月	5	2,452単位/回	1471千円
特定事業所加算(Ⅱ)			1007千円
訪問介護初回加算	5	200単位/回	10千円
介護予防初回加算	1	200単位/回	2千円
介護職員処遇改善加算			442千円
訪問介護収入合計			11494千円



事業名	ケアステーションハピネスはちのへ 福祉用具貸与・特定福祉用具販売			
作成者	部署名	福祉用具貸与	役職名	営業所 所長
	氏名	小泉 哲		
年度目標 テーマ	点から線へ 線から面へ (人のつながり～信頼関係)			
<p>介護を受ける側、介護を行う側双方に、より良い環境での介護を提案出来るように、知識の向上に努め、選ばれる福祉用具専門相談員を目指します。又、介護負担軽減にむけての持ち上げない介護（腰痛対策にも繋がる）に対し、有効な福祉用具の提案を行います。</p> <p>これまで行ってきた、介護保険事業の特定福祉用具販売に併せて、買う側からの選択肢を広げられるように、一般の福祉用具販売に力を入れ取り組んでいきます。</p> <p>平成26年4月からの消費税増税については、市内の他福祉用具事業所の動向を確認した所、報酬単価を値上げする事業所も確認しましたが、当事業所は主な卸業者が価格据え置きのため、今年度は、価格を上げず営業してまいります。</p> <p><b>1 実績向上の取り組み</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 八戸エリアの拡充に向け、ネットワークの構築に力を入れます。又、市内に開設が続く有料老人ホームへ営業活動を行います。引き続き既存の事業所、取引のない事業所への訪問は毎月定期的に継続します。</li> <li>2) ハピネスやくら居宅介護支援事業所、ハピネスはちのへ居宅支援事業所と連携し、病院の医療連携室等への営業を行い実績向上に努めます。</li> <li>3) 五戸町、南部町方面は取引のある既存居宅支援事業所を中心に拡充をはかります。また、取引のない事業所への訪問を継続し新規取引につなげます。</li> <li>4) JIS 規格対応の自社レンタルベッドの稼働率を向上出来るように、法人内居宅介護支援事業所と連携してまいります。</li> <li>5) 法人内居宅事業所平均シェア率は、徐々にですが上昇を続けています。選ばれる事業所を目指し、シェア率89.9%を目指します。</li> </ol> <p><b>2 地域への発信と地域貢献事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実施地域である、五戸町、南部町の産業と文化祭りに参加し、地域への福祉用具の浸透を図ります。</li> <li>2) 継続的な町内活動により、事業所地域からの相談も多くなっています。今後も地域貢献活動（清掃活動、三社大祭参加等）に積極的に参加してまいります。</li> </ol>				

### 3 職員の専門性向上

- 1) 介護支援専門員の取得を目指し、福祉における総合的な知識の向上に努めます。
- 2) 専門的研修会に参加し、最新の情報が提供できるように努めます。
- 3) 国際福祉機器展に参加し、新製品の情報収集を行います。
- 4) 卸業者の工場見学（青森…パラケア又はランダル、仙台…柏木）を行い商品の清掃、消毒、管理状態などの商品管理を学びます。

### 4 職員が心身共に健康で安心して就業する職場作り

職員との定期的な面接により、身体的、精神的な変化を早急に発見出来る体制を作ります。職員間同士のコミュニケーションを密に取れるよう工夫して業務に望みます。

### 5 第6期介護保険事業計画に向けた準備

福祉用具貸与事業は、報酬単価が定まっている事業ではない為、他の事業所等の動向等情報収集しながら、準備を行っていきます。

### 6 コンプライアンスへの取り組み

毎月自己点検シートによる法令遵守確認作業を行っていくと共に、職員間でお互いにチェックする体制を作ります。

### 7 稼働率の安定

現在自社ベッド54台所有していますが、適切なベッド管理を行い、回転率を上昇出来るように居宅介護支援事業所と連携し、稼働率の向上を図ります。

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度 福祉用具貸与等 収入見込み 上半期

(単位；千円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
介護保険利用者数		180	183	185	187	187	190	
貸 与	新規	8	9	8	8	8	9	
	終了	6	6	6	6	6	6	
	ベッド	既存 レンタル	51	52	52	53	54	55
		自 社	50	50	51	51	50	50
	ベッド (件)		101	102	103	104	105	106
	収 入		1010	1020	1030	1040	1050	1060
	車椅子 (件)		52	53	54	54	54	55
	収 入		208	212	216	216	216	220
	床ずれ防止用具 (件)		45	47	47	47	48	48
	収 入		360	376	376	376	384	384
	その他 (件)		205	206	210	214	218	224
	収 入		615	618	630	642	654	672
	一般レンタル (件)		5	5	5	5	5	5
	収 入		10	10	10	10	10	10
	貸与収入計 A		2203	2236	2262	2284	2314	2346
販 売	特定福祉用具販売 (件)	5	6	5	6	5	5	
	収 入	100	120	100	120	100	100	
	その他物販 (件)	33	34	36	36	38	38	
	収 入	264	272	288	288	304	304	
	販売収入計 B	364	392	388	408	404	404	
収入総合計 (A+B)		2567	2628	2650	2692	2718	2750	

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度 福祉用具貸与等 収入見込み 下半期

(単位；千円)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険利用者数		190	190	188	186	183	186	2235	
貸 与	新規	8	8	8	8	7	9	98	
	終了	6	6	10	10	10	6	84	
	ベッド	既存 レンタル	54	53	55	52	51	52	634
		自 社	51	51	49	49	49	51	602
	ベッド (件)		105	104	103	101	100	103	1237
	収 入		1050	1040	1030	1010	1000	1030	12370
	車椅子 (件)		55	55	54	52	52	54	644
	収 入		220	220	216	208	208	216	2576
	床ずれ防止用具 (件)		48	47	45	44	43	46	555
	収 入		384	376	360	352	352	368	4448
	その他 (件)		228	232	226	215	210	230	2618
	収 入		684	696	678	645	630	690	7854
	一般レンタル (件)		5	5	5	5	5	5	60
	収 入		10	10	10	10	10	10	120
貸与収入計 A		2348	2342	2294	2225	2220	2314	27368	
販 売	特定福祉用具販売 (件)	5	5	5	4	4	5	60	
	収 入	100	100	100	80	80	100	1200	
	その他物販 (件)	44	40	36	32	30	37	434	
	収 入	352	320	288	256	240	296	3472	
販売収入計 B		452	420	388	336	320	396	4672	
収入総合計 (A+B)		2800	2762	2682	2561	2520	2710	32040	

2014年度 ハピネスやくら・はちのへ 事業計画

2014年度【ハピネスはちのへ 福祉用具賞与、販売】施設月別年間スケジュール表												
基本日程	2014年度											
	2014上半期						2014下半期					
	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		第3四半期		第4四半期	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 稼働率 稼働率 稼働率 稼働率 稼働率 稼働率 稼働率	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
各種会議・委員会	福祉用具ミーティング ハピネスはちのへ 全体会議	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング ハピネスはちのへ 全体会議	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング ハピネスはちのへ 全体会議	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング ハピネスはちのへ 全体会議	福祉用具ミーティング	福祉用具ミーティング
人事管理（採用・研修・評価）	持ち上げない介護 に向けての有効な 福祉用具の活用	卸業者 工場見学	メーカー 新商品 研修会	卸業者 工場見学 ハピネスはちのへ 全体会議	メーカー 新商品 研修会		国際福祉機器展見学		メーカー 新商品 研修会		メーカー 新商品 研修会	
その他 地域貢献活動	地域コミゼロ 運動参加 就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	町内山車組 三社大祭参加 就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	地域コミゼロ 運動参加 就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃	就業前の事業所 周辺の清掃